

目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
(1) 学生の確保の見通し	2
ア 定員充足の見込	2
イ 客観的なデータの概要	3
ウ 学生納付金の設定の考え方	4
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	5
2. 人材需要の動向等社会の要請	6
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	6
(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもの であることの客観的な根拠	7

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込

本学では、既設の川崎市立看護短期大学、神奈川県内の看護師養成大学並びに県外の近隣公立大学の看護系学部における募集状況、志願状況及び定員充足状況や、本市及び神奈川県の高校生の大学（学部）（以下、「4年制大学」という。）への進学志向、さらには高校生を対象とした本学への進学希望アンケート調査の結果などの客観的なデータを勘案し、入学定員を100人、収容定員を400人とした。

本学が位置する川崎市は、平成28（2016）年度に策定した川崎市総合計画の第2期実施計画における将来人口推計では、全国的に少子高齢化が進んでいる中、0～14歳の年少人口が、令和12（2030）年のピークを迎えるまで増加していくと見込まれている。このことから、本学が開学を予定している令和4（2022）年から20～30年後において、年少人口は徐々に減少している一方で、主な受験対象年齢となる18歳人口については、現状とほぼ同程度であると見込めるため、少子高齢化が進む他都市と比較して、学生確保に関し有利な環境にあると言える。（資料1）

次に、既設の看護短期大学では、一般選抜、学校推薦型選抜及び学士・社会人選抜において入学者を選抜しており、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度の入学者に係る募集状況、志願状況及び定員充足状況において、各年度とも受験者数は入学定員（80人）を上回っており、受験倍率の5か年平均は約2倍となっている。また、入学者数の5か年平均は81.2人で、定員充足率の5か年平均は1.02であり、平均すると定員を充足していることが言える。特に、一般選抜の志願者数は、上記の各年度において入学定員を上回っている。（資料2）

次に、神奈川県内の看護師養成大学は、令和2（2020）年5月時点で13校あるが、これらの大学における入学定員の平均値は90人であり、本学が設定した入学定員100人は県内他大学との比較において概ね平均程度であることが分かる。さらに、平成30（2018）～令和2（2020）年度入学に係る全校の合格倍率の平均は、平成30（2018）年度からそれぞれ3.85倍、3.11倍、2.78倍で、これらの3か年平均は3.25倍となり、約3倍で推移していることが分かる。また同様に、各年度における全校の入学定員合計に対する入学者数の割合である入学定員充足率の平均についても、1.03、1.05、1.03で推移しており、3か年平均で1.04となり、全体でみて定員を充足していることが分かる。これらのことから、本学の入学定員を充足できるだけの受験者数・入学者数を確保していくことが出来るものと見込んでいる。（資料3）

また、令和元（2019）年度の学校基本調査において、本市及び神奈川県における高校生の大学（短期大学を含む。）進学率は58.5%、60.7%で、大学進学者のうち4年制大学に進学する割合はいずれも95.1%、93.8%と高い。全国的に見ても、同調査において、大学進学率は54.8%で、そのうち4年制大学に進学する割合は91.2%と本

市や神奈川県と同様に高く、一般的に、大学進学者の4年制大学への進学志向が強いものと考えられる。(資料4、5)

さらに、主に神奈川県内の高校生を対象とした本学への進学希望アンケート調査を令和2(2020)年6月～7月に実施したところ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により緊急事態宣言が発令された影響を大きく受け、当初想定していたアンケート協力数を大幅に下回ったものの、「本学を受験したい」若しくは「併願校の1つとして受験したい」と答えた学生数は全体で計329人おり、また、このうち本学に「ぜひ入学したい」と回答した学生数は92人、「併願校の合格状況次第で入学したい」と回答した学生数が213人であった。また、大学進学を希望した学生のうち、「本学を受験したい」若しくは「併願校の1つとして受験したい」と答えた学生数は計275人おり、「ぜひ入学したい」と回答した学生数は80人、「併願校の合格状況次第で入学したい」と回答した学生数が187人であった(下表参照)。今回のアンケート調査は神奈川県に所在する高等学校の学生を中心に回答されたものであるが、既存の看護短期大学では神奈川県外からの入学者割合が33%あり、本学においても一定数、県外からの入学者が見込めること、また、「併願校の合格状況次第で入学したい」と回答した学生が全体では213人、大学希望者に絞っても187人いることから、本学が設定した入学定員100人については充足できるものと考ええる。(資料6、7)

問9 あなたが川崎市立看護大学(仮称)を受験して合格した場合、入学したいと思いますか？一番近いもの1つに○をつけてください。 (大学進学希望者限定で集計)	件数	%
全 体	275	100.0
ぜひ入学したい	80	29.1
併願校の合格状況次第で入学したい	187	68.0
入学したくない	8	2.9

イ 客観的なデータの概要

上記アにおいて記載した本学が定員を充足できる見込みがあることを示す客観的なデータについては、次のとおりである。

(7)本市が、そのめざす都市像の実現に向けた施策を進めていくために平成28(2016)年度において定めた川崎市総合計画の第2期実施計画(計画期間:平成30(2018)～令和3(2021)年度)の中で示した令和42(2060)年までの本市の将来人口推計を資料1とした。

(4)既設の看護短期大学における平成28(2016)～令和2(2020)年度までの5か年の志願者数、受験者数、合格者数及び合格倍率などの入学選抜試験の実施状況や、入

学者数及び入学定員充足率の状況を示したものを資料2とした。

(リ) 神奈川県内の本学と同分野にあたる看護師養成大学に係る平成30(2018)～令和2(2020)年度までの一般選抜及びセンター利用入試の志願者数、受験者数、合格者数及び合格倍率や、入学者数及び入学定員充足率の状況を示したものを資料3とした。

(イ) 本市及び神奈川県並びに国における学校基本調査結果に基づき、それぞれで平成31(2019)年3月に卒業した高校生の大学進学者数及び大学進学率や、大学進学者のうちの4年制大学への進学志向をまとめたものを資料4及び資料5とした。

(ロ) 市内の高校をはじめとして、所在地が神奈川県内や東京都内である高校を中心に、各校の高校2年生を対象とした本学への進学希望アンケート調査を令和2(2020)年6月～7月に実施し、その結果に関する報告書を資料6とした。当該調査の概要は次のとおりである。

○調査の目的：川崎市立看護大学（仮称）の新設計画に伴い、具体的に受験層である高校生を対象に進学受容性調査を行うことで入学志願者の分析を行い、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

○調査期間：令和2(2020)年6月～7月

○調査対象・地域：首都圏エリアの高等学校に在籍する現役高校2年生(20,253人)

○調査方法：郵送アンケート調査

○回収状況：3,723件(回収率18.4%)

※株式会社日本ドリコムが、調査の実施及び報告書の作成を請け負った。

また併せて、既設の看護短期大学における入学者のうち、神奈川県外からの入学者が一定数いることを明らかにするため、その内訳を資料7とした。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金について、近隣の4公立大学(神奈川県立保健福祉大学・横浜市立大学・東京都立大学・千葉県立保健医療大学)の金額及び本学の継続的かつ安定的な財政運営を考慮し、授業料については、国立大学標準額と同額となる535,800円とした。また、入学料については、市内から入学する学生を141,000円と市外から入学する学生を282,000円と異なる金額を設定した。これは、市内から入学する学生に一定の優遇措置を設けるとともに、市外から入学する学生についても、近隣の4公立大学と同程度の金額設定とすることで、市内外から広く学生を確保することを目的としている。

近隣の4公立大学	入学料		授業料
	区域内	区域外	
神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科	282,000円	564,000円	535,800円
横浜市立大学医学部看護学科	141,000円	282,000円	557,400円
東京都立大学健康福祉学部看護学科	141,000円	282,000円	520,800円
千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科	282,000円	423,000円	535,800円

出典：各大学HP（ホームページ）より作成

【参考：神奈川県内の私立の看護師養成大学における入学料及び授業料】

大学・学部・学科名（五十音順）	入学料	授業料（※）
神奈川工科大学健康医療科学部看護学科	200,000円	1,660,000円
関東学院大学看護学部看護学科	290,000円	1,000,000円
北里大学看護学部看護学科	400,000円	1,200,000円
慶應義塾大学看護医療学部看護学科	200,000円	1,040,000円
国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科	300,000円	900,000円
松蔭大学看護学部看護学科	330,000円	880,000円
湘南医療大学保健医療学部看護学科	330,000円	980,000円
湘南鎌倉医療大学看護学部看護学科	200,000円	1,000,000円
昭和大学保健医療学部看護学科	500,000円	1,050,000円
東海大学医学部看護学科	300,000円	855,000円
横浜創英大学看護学部看護学科	300,000円	1,020,000円

※上表中の授業料は、入学初年度において必要な金額を載せている。

出典：各大学HP（ホームページ）より作成

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

ア 大学独自のHP（ホームページ）の開設に向けた取組

学生確保に向け、大学独自のHPを開設することを予定している。当該HPを活用し、認可後は入学希望者に向けて必要な情報発信を適宜行っていく予定である。

イ オープンキャンパス（又は入試説明会）の実施

認可後において、新型コロナウイルス感染症の感染状況を慎重に見極めながら、可能な範囲で、オープンキャンパス（又は入試説明会）を開催する予定である。仮に、開催困難であった場合においても、上記アのHPにより入試情報等の必要な情報発信を行っていく予定である。また、令和元（2019）年度において、既設の看護短期大学のオープンキャンパス等に来校し本学について関心のある学生及び保護者向けに、一部ブースを設け、本学についての案内等の説明を実施した。

ウ 大学案内誌や SNS 等の活用

大学進学希望者やその保護者向けに作成されている大学案内誌等に関して、本学が大学設置認可申請中であることを周知するために紙面掲載することを予定している。また併せて、川崎市が市内の各世帯へ配布している「市政だより」や市のアカウントを活用した SNS 配信などにより、上記イに記載したオープンキャンパス等の情報を発信していく予定である。

エ 大型ターミナル駅である川崎駅における映像配信

JR 東日本の HP 上の掲載によると、川崎駅は、令和元（2019）年度において 1 日平均の乗車人員が 215,234 人で、JR 東日本エリア内の 1 日平均の乗車人員を把握できる駅の中で 11 番目に多い駅となっている。この川崎駅の管内に、駅に直結した商業施設が保有する大型モニターがあり、当該モニターで本学に関する映像を配信することにより、かなりの数の人の目に触れることが期待できることから、当該モニターを活用した映像配信を予定している。

オ 近隣の高校への訪問実施

令和元（2019）年度から、市内にある高校へ訪問を実施し、本学の受験対象学年となる高校 1 年生向けに本学についての案内・周知を実施している。また、今後も市内や神奈川県内の高校を中心に、高校訪問を実施し、学生確保に向けた PR 活動を実施していく予定である。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

国や看護協会などの関係機関における地域包括ケアシステム構築に向けた議論等において、看護師の置かれている状況は、少子高齢化の進展や医療技術の進歩、医療提供の場の多様化等により大きく変わってきており、これまでよりも幅広い役割を担っていくことが期待されている。

高齢化の進展により、医療・介護・福祉ニーズが増大し、病床機能の分化、在宅医療が推進される中、人口減少社会においては、限られた人材で対応することが求められており、そのためには多職種と連携して質が高くより効果的に医療を提供する必要性も高まっている。また、高齢化社会の到来により、人生の最終段階を人としての尊厳を保持しながら、死を迎えられるように支える看取りや、地域の人々が健康を維持しながら長く生活を続けてもらうために自分自身を管理する意識の向上、地域の中でお互いに助け合う意識の醸成、災害時に医療職として人々の生活や暮らしを守るため

の活動など、看護師は多様な役割を果たすことが求められている。

このような多様化に対応するために、本学では、病院だけでなく地域の様々な場で活躍することができ、地域包括ケアシステムに資する人材の養成を目的とする。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの根拠
ア 厚生労働省における看護基礎教育内容の検討

厚生労働省が立ち上げた看護基礎教育検討会の令和元(2019)年10月15日付けの「看護基礎教育検討会報告書(概要版)」では、『人口及び疾病構造の変化や療養の場の多様化等を踏まえ、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進に向け、多職種が連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されており、その中で看護職員には対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められている。』ことを背景として、当該検討会において看護基礎教育内容の検討が行われたとしている。このことから、上記(1)が、求められる看護人材需要の動向を踏まえたものであると言える。(資料8)

イ 神奈川県地域医療構想における本市の医療需要の将来推計

神奈川県地域医療構想(平成28(2016)年10月策定)における本市の医療需要の将来推計では、川崎北部・南部で構想区域を分けており、平成25(2013)年と比較して令和7(2025)年では入院の医療需要が、川崎北部で1.32倍、川崎南部で1.26倍の増加が見込まれており、がん、急性心筋梗塞、脳卒中、肺炎等の疾病ごとの入院の医療需要についても、全て増加することが見込まれている。同様に、在宅医療等の医療需要も、川崎北部で1.70倍、川崎南部で1.40倍の増加が見込まれており、推計された全ての分野で増加が予想されている。こうしたことから、本市において、これら医療需要を支える看護人材の需要は今後も増え続けることが予想される。(資料9)

ウ 神奈川県及び本市における今後の看護職員需要の見通し

本市における平成30(2018)年12月31日現在の看護職員数は13,071人で、その内訳は、保健師293人、助産師402人、看護師11,099人、准看護師1,277人となっており、看護師を筆頭に看護職員数は概ね増加傾向にある。しかし、人口10万人対の看護職員数を全国平均と比較すると、総数は全国1275.6人に対して861.9人、保健師は全国41.9人に対して19.3人、助産師は全国29.2人に対して26.5人、看護師は全国963.8人に対して731.9人、准看護師は全国240.8人に対して84.2人でいずれも全国平均よりも低い数値となっている。神奈川県内ほとんどの准看護師養成学校が閉校したことから、准看護師については全国平均との乖離が顕著であるが、保健師と看護師についても、全国平均と比べて大きく乖離しており、また先述の通り令和7(2025)年に向けて在宅医療も含めた医療需要の増大が見込まれている。

また、令和元（2019）年11月15日付けで報告された厚生労働省における看護職員需給分科会の「医療従事者の需給に関する検討会（中間とりまとめ）」に向けて、令和7（2025）年度における看護職員需要について、神奈川県が推計を行っている。その推計の中で神奈川県独自の推計が行われており、そこでは看護職員需要数103,907人に対し供給が85,084人で、不足数は18,823人、充足率は81.9%となっていることから、本市においても同様の状況であると捉えており、今後も相当数の看護師をはじめとした看護職員養成が必要になると考えられる。（資料10）

エ 川崎市看護協会からの4年制大学設置の要望

本市に所在し、看護職員への人材確保と定着・働きやすい職場づくりの支援などの活動を展開し、国内では唯一市町村レベルで法人格を持つ団体として活動している川崎市看護協会から、平成24年度以降、質の高い看護師養成のため、既設の看護短期大学の4年制大学への移行について要望が出ており、本学が所在する地域において上記（1）の目的に掲げた人材養成が求められている。（資料11）

オ 本学卒業生の採用意向調査

市内の病院・訪問看護・介護老人施設等をはじめとして、所在地が神奈川県内や東京都内である同施設を中心に、本学卒業生の採用意向に関するアンケート調査を令和2（2020）年6月～7月に実施した。当該調査の概要は次のとおりである。

○調査の目的：川崎市立看護大学（仮称）の新設計画に伴い、該当大学の卒業生の就職先として想定される病院・訪問看護・介護老人施設等へ本計画に対する関心度及び現在の採用状況を尋ね社会的ニーズを把握し、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

○調査期間：令和2（2020）年6月～7月、令和3（2021）2月

○調査対象・地域：首都圏に所在する病院・訪問看護・介護老人施設等

○調査方法：郵送アンケート調査

○回収状況：131件

※株式会社日本ドリコムが、調査の実施及び報告書の作成を請け負った。

当該調査において、本学を卒業した看護師を採用したいかという設問（問9）に対し、「採用したい」の回答が50施設（全体の38.5%）あり、「採用を検討したい」と回答した施設が43施設（全体の33.1%）で、全体の約7割が本学卒業生の採用について前向きであることが分かった。

また、「採用したい」若しくは「採用を検討したい」と回答した計93施設に対し、問10で現時点での採用可能人数を質問したところ、次のとおりの結果が得られた（1施設未回答）。

問10 問9で「1. 採用したい」または「2. 採用を検討したい」と回答した方にお尋ねします。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか？ あてはまる番号1つに○をつけてください。	件数	%
全 体	92	100.0
1 人	19	20.7
2 人	14	15.2
3 人	9	9.8
4 人	1	1.1
5～9 人	9	9.8
10 人以上	5	5.4
人数はわからない	35	38.0

この結果をまとめると、現時点での最低採用可能人数は、次表のとおり 173 人と算出することができ、これは入学定員 100 人を上回ることから、上記（1）で述べた教育研究上の目的等が現在の人材需要の動向等を踏まえたものであることが言える。
（資料 12）

採用可能人数	回答件数（施設数）
1 人	19 件
2 人	14 件
3 人	9 件
4 人	1 件
5～9 人	9 件
10 人以上	5 件

↓ ※「5～9 人」は 5 人、「10 人以上」は 10 人として算出した。

最低採用可能人数	173 人
----------	-------

中長期的な観点からの分析においても、次表のとおり、「採用したい」または「採用を検討したい」と回答した施設で、かつ問5において今後の採用方針が、「定期的に採用を行う予定」または「ある程度定期的に採用を行う予定」としている施設は合計 62 施設あり、採用可能人数が未回答であった 23 施設を除く当該施設の採用可能人数から算出した最低採用可能人数は、147 人となり、現時点における中長期的な人材需要の要請にも応える結果であると考えられる。

採用可能人数	回答件数（施設数）
1人	7件
2人	9件
3人	9件
4人	0件
5～9人	9件
10人以上	5件

↓ ※「5～9人」は5人、「10人以上」は10人として算出した。

最低採用可能人数	147人
----------	------

資 料 目 次

(資料1) 川崎市総合計画第2期実施計画【川崎市の将来人口推計】	・・・ 2
(資料2) 既設の看護短期大学における入学状況	・・・ 4
(資料3) 神奈川県内の看護師養成大学における入学に関するデータ 【平成30(2018)～令和2(2020)年度入学】	・・・ 5
(資料4) 川崎市内・神奈川県内の高校生の大学(学部)進学率及び大学(学部)への 進学志向	・・・ 6
(資料5) 文部科学省「令和元年度学校基本調査(確定値)の公表について」	・・・ 7
(資料6) 川崎市立看護大学(仮称) 受容性調査結果報告書 <高校生向け>	・・・ 8
(資料7) 既設の看護短期大学における入学者の概要	・・・ 34
(資料8) 看護基礎教育検討会報告書の概要	・・・ 35
(資料9) 神奈川県地域医療構想データ集【川崎北部・川崎南部の医療需要推計等】	・・・ 36
(資料10) 神奈川県 of 看護職員の需給推計について	・・・ 42
(資料11) 川崎市看護協会要望書(抜粋)	・・・ 44
(資料12) 川崎市立看護大学(仮称) 受容性調査結果報告書 <病院・訪問看護・介護老人施設等向け>	・・・ 46

川崎市総合計画

第2期実施計画



川崎をもっともっと
住みやすいまちにするために。

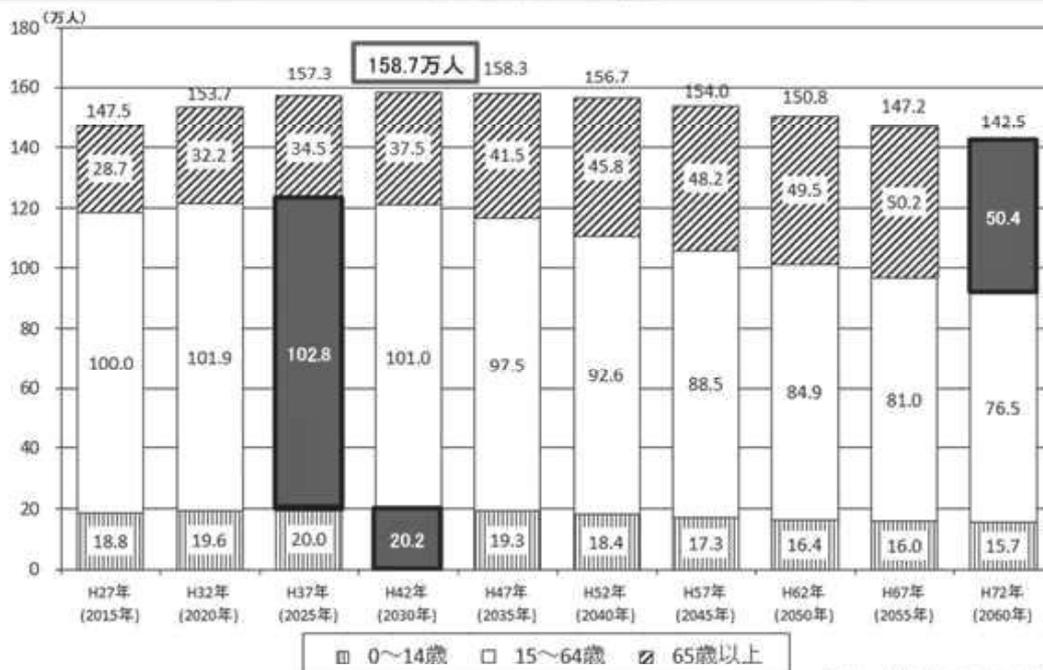
川崎市

平成30(2018)年3月

川崎市の将来人口推計

本市は、少子高齢化がさらに進行し、平成42（2030）年をピークとして人口減少へ転換する。

川崎市の将来人口推計



資料：川崎市将来人口推計

川崎市の将来人口推計の前回推計（平成26（2014）年）との比較

前回推計と比較すると、駅周辺を中心とした拠点開発の進捗等により、人口ピーク値が前回と比べ6.5万人の増加となっている。また、年少人口は、ピーク時期が平成42（2030）年になるなど、減少局面に入る時期が15年遅れる結果となっている。

	平成29（2017）年推計	平成26（2014）年推計	
【特徴】	今回推計	前回推計	差異
人口ピーク年	平成42（2030）年	平成42（2030）年	±0年
人口ピーク値	158.7万人	152.2万人	+6.5万人
年少人口 （0～14歳） ピーク	平成42（2030）年 20.2万人	平成27（2015）年 19.1万人	+15年 +1.1万人
0～4歳人口 ピーク	平成32（2020）年 7.4万人	平成22（2010）年 6.7万人	+10年 +0.6万人
生産年齢人口 （15～64歳） ピーク	平成37（2025）年 102.8万人	平成37（2025）年 100.2万人	±0年 +2.6万人
老年人口 （65歳以上）	平成72（2060）年時点で 50.4万人	平成62（2050）年 49.8万人	+10年 +0.5万人
75歳以上人口	平成72（2060）年時点で 31.5万人	平成67（2055）年時点で 30.8万人	+5年 +0.7万人

資料：川崎市将来人口推計

<平成28(2016)年度から令和2(2020)年度の入学状況>

年 度	平成28(2016)	平成29(2017)	平成30(2018)	令和元(2019)	令和2(2020)
志願者数(人)	227	209	259	229	168
受験者数(人)	200	184	231	207	158
合格者数(人)	102	104	120	81	82
受 験 倍 率	1.96	1.77	1.93	2.56	1.93
入学者数(人)	80	78	95	80	73
入学定員(人)	80	80	80	80	80
定員充足率	1.00	0.98	1.19	1.00	0.91

●受験倍率の5か年平均 = 2.00

●入学者数の5か年平均 = 81.2(人)

●定員充足率の5か年平均 = 1.02

<一般選抜志願者の状況>

年 度	平成28(2016)	平成29(2017)	平成30(2018)	令和元(2019)	令和2(2020)
志願者数(人)	151	139	179	141	102
受験者数(人)	125	114	152	123	93
入学定員(人)	80	80	80	80	80
入学定員に対する受験者比	1.56	1.43	1.90	1.54	1.16

区分	大学名	所在地	入学定員 (人)	入学状況 (※1) (※2)	年度			平均
					平成30(2018)	令和元(2019)	令和2(2020)	
公立	神奈川県立保健福祉大学	横須賀市	90	【一般・セ試】志願者数(人)	280	329	265	
				【一般・セ試】受験者数(人)	181	221	179	
				【一般・セ試】合格者数(人)	53	54	52	
				【一般・セ試】合格倍率	3.42	4.09	3.44	
				入学者数(人)	91	93	91	
	定員充足率	1.01	1.03	1.01				
	横浜市立大学	横浜市	100	【一般・セ試】志願者数(人)	191	154	115	
				【一般・セ試】受験者数(人)	175	147	107	
				【一般・セ試】合格者数(人)	91	70	78	
				【一般・セ試】合格倍率	1.92	2.10	1.37	
入学者数(人)				100	104	102		
定員充足率	1.00	1.04	1.02					
私立	神奈川工科大学	厚木市	80	【一般・セ試】志願者数(人)	416	339	371	
				【一般・セ試】受験者数(人)	398	315	354	
				【一般・セ試】合格者数(人)	157	198	208	
				【一般・セ試】合格倍率	2.54	1.59	1.70	
				入学者数(人)	88	83	82	
	定員充足率	1.10	1.04	1.03				
	関東学院大学	横浜市	80	【一般・セ試】志願者数(人)	595	540	557	
				【一般・セ試】受験者数(人)	566	479	515	
				【一般・セ試】合格者数(人)	125	134	220	
				【一般・セ試】合格倍率	4.53	3.57	2.34	
				入学者数(人)	81	79	81	
	定員充足率	1.01	0.99	1.01				
	北里大学	相模原市	125	【一般・セ試】志願者数(人)	835	874	686	
				【一般・セ試】受験者数(人)	812	836	665	
				【一般・セ試】合格者数(人)	199	222	172	
				【一般・セ試】合格倍率	4.08	3.77	3.87	
				入学者数(人)	129	130	140	
	定員充足率	1.03	1.04	1.12				
	慶應義塾大学	藤沢市	100	【一般・セ試】志願者数(人)	694	655	565	
				【一般・セ試】受験者数(人)	637	606	493	
				【一般・セ試】合格者数(人)	156	174	158	
				【一般・セ試】合格倍率	4.08	3.48	3.12	
				入学者数(人)	107	106	105	
	定員充足率	1.07	1.06	1.05				
	国際医療福祉大学	小田原市	80	【一般・セ試】志願者数(人)	605	627	400	
				【一般・セ試】受験者数(人)	592	610	388	
				【一般・セ試】合格者数(人)	139	135	111	
				【一般・セ試】合格倍率	4.26	4.52	3.50	
				入学者数(人)	86	87	87	
	定員充足率	1.08	1.09	1.09				
	松蔭大学	厚木市	80	【一般・セ試】志願者数(人)	未公開	未公開	未公開	
				【一般・セ試】受験者数(人)	未公開	222	167	
				【一般・セ試】合格者数(人)	未公開	162	118	
				【一般・セ試】合格倍率	未公開	1.37	1.42	
				入学者数(人)	75	79	58	
	定員充足率	0.94	0.99	0.73				
	湘南医療大学	横浜市	80	【一般・セ試】志願者数(人)	423	377	357	
				【一般・セ試】受験者数(人)	382	354	331	
				【一般・セ試】合格者数(人)	105	108	85	
				【一般・セ試】合格倍率	3.64	3.28	3.89	
				入学者数(人)	85	84	82	
	定員充足率	1.06	1.05	1.03				
湘南鎌倉医療大学	鎌倉市	100	【一般・セ試】志願者数(人)			237		
			【一般・セ試】受験者数(人)			218		
			【一般・セ試】合格者数(人)			98		
			【一般・セ試】合格倍率			2.22		
			入学者数(人)			107		
定員充足率			1.07					
昭和大学	横浜市	95	【一般・セ試】志願者数(人)	785	566	581		
			【一般・セ試】受験者数(人)	746	547	568		
			【一般・セ試】合格者数(人)	195	185	236		
			【一般・セ試】合格倍率	3.83	2.96	2.41		
			入学者数(人)	98	105	100		
定員充足率	1.03	1.11	1.05					
東海大学	伊勢原市	85	【一般・セ試】志願者数(人)	1,299	999	894		
			【一般・セ試】受験者数(人)	1,214	907	815		
			【一般・セ試】合格者数(人)	149	136	112		
			【一般・セ試】合格倍率	8.15	6.67	7.28		
			入学者数(人)	84	84	82		
定員充足率	0.99	0.99	0.96					
横浜創英大学	横浜市	80	【一般・セ試】志願者数(人)	231	294	250		
			【一般・セ試】受験者数(人)	208	246	221		
			【一般・セ試】合格者数(人)	167	186	161		
			【一般・セ試】合格倍率	1.25	1.32	1.37		
			入学者数(人)	87	99	96		
定員充足率	1.09	1.24	1.20					
合計			1,175 令和元 (2019) 年度 までは、 1,075人	【一般・セ試】志願者数(人)	6,354	5,754	5,278	5,795
				【一般・セ試】受験者数(人)	5,911	5,490	5,021	5,474
				【一般・セ試】合格者数(人)	1,536	1,764	1,809	1,703
				【一般・セ試】合格倍率	3.85	3.11	2.78	3.25
				入学者数(人)	1,111	1,133	1,213	1,152
				定員充足率	1.03	1.05	1.03	1.04

※1 志願者数、受験者数、合格者数及び合格倍率については、一般選抜試験及びセンター試験利用入試の結果（A0入試、推薦型選抜を除く。）である。

※2 入学者数については、一般選抜試験、センター試験利用入試、A0入試、推薦型選抜試験の合計値である。

出典：代々木ゼミナール（予備校）HPの入試結果情報及び各大学HPの情報公開より作成

●川崎市内の高校生の大学（学部）進学率及び大学（学部）への進学志向

(単位 人)

平成31年（2019）年3月卒業者数【A】	7,583
大学進学者数【B】	4,438
<内訳>	
大学（学部）進学者数【C】	4,220
短期大学等進学者数	218
大学進学率【B/A】	58.5%
うち大学（学部）への進学志向【C/B】	95.1%

出典：令和元（2019）年度学校基本調査より作成

●神奈川県内の高校生の大学（学部）進学率及び大学（学部）への進学志向

(単位 人)

平成31年（2019）年3月卒業者数【A】	66,605
大学進学者数【B】	40,427
<内訳>	
大学（学部）進学者数【C】	37,913
短期大学等進学者数	2,514
大学進学率【B/A】	60.7%
うち大学（学部）への進学志向【C/B】	93.8%

出典：令和元（2019）年度学校基本調査より作成

II. 卒業後の状況

1. 高等学校(全日制・定時制)卒業生(中等教育学校後期課程卒業生を含む。以下同じ。)

- 卒業生に占める大学・短期大学への進学者の割合は54.8% (うち、大学(学部)50.0%)で、前年度と同率。
 - 卒業生に占める専門学校への進学者の割合は16.3%で、前年度より0.4ポイント上昇。
 - 卒業生に占める就職者の割合は17.6% (うち、正規の職員等17.5%)で、前年度より0.1ポイント上昇。
-
- 高等教育機関への進学率(過年度卒を含む)は82.8%で、前年度より1.3ポイント上昇し、過去最高。
 - 大学・短期大学進学率(過年度卒を含む)は58.1%で、前年度より0.2ポイント上昇し、過去最高。大学(学部)進学率(過年度卒を含む)は53.7%で、前年度より0.4ポイント上昇し、過去最高。

表3 高等学校卒業後の状況

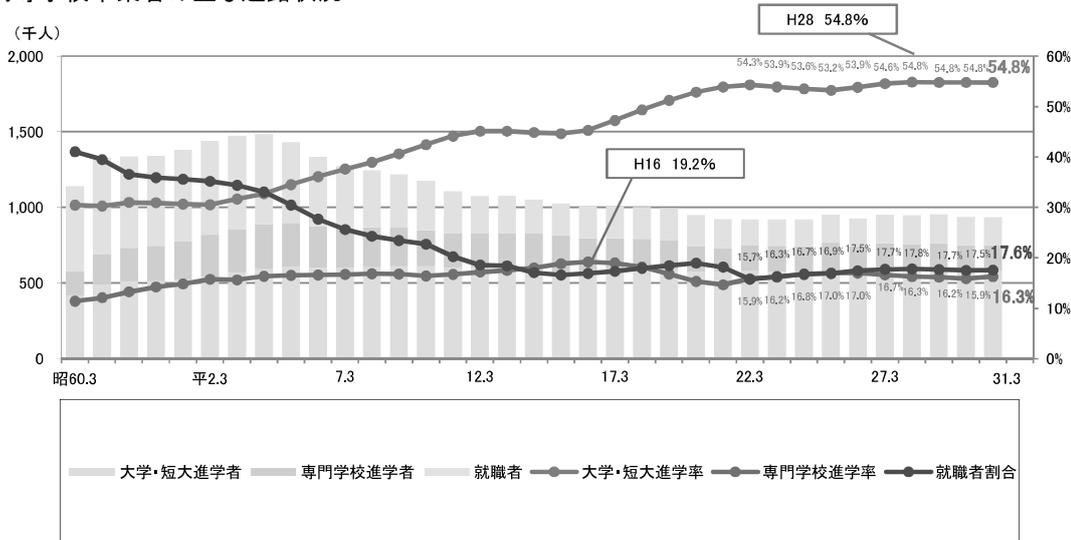
(単位:人,%)

区分	卒業生	大学・短大 進学者(率)	うち大学(学部) 進学者(率)	専門学校 進学者(率)	専修学校 (一般課程)等 入学者(率)	公共職業能力 開発施設等 入学者(率)	就職者 (卒業生に占める 就職者の割合)	うち正規の職員 等(率)	一時的な仕事に 就いた者(率)	左記以外の者 (率)
平成22年3月	1,071,422	582,272 (54.3)	513,013 (47.9)	170,352 (15.9)	68,117 (6.4)	7,696 (0.7)	168,727 (15.7)	...	15,560 (1.5)	59,703 (5.6)
23年3月	1,064,074	573,679 (53.9)	507,509 (47.7)	172,200 (16.2)	66,592 (6.3)	6,904 (0.6)	173,566 (16.3)	...	14,994 (1.4)	56,965 (5.4)
24年3月	1,056,387	565,779 (53.6)	503,545 (47.7)	177,486 (16.8)	64,305 (6.1)	6,796 (0.6)	176,931 (16.7)	...	13,892 (1.3)	51,922 (4.9)
25年3月	1,091,614	581,144 (53.2)	517,416 (47.4)	185,588 (17.0)	66,494 (6.1)	6,852 (0.6)	184,656 (16.9)	...	13,623 (1.2)	53,951 (4.9)
26年3月	1,051,343	566,309 (53.9)	505,240 (48.1)	178,735 (17.0)	57,154 (5.4)	6,412 (0.6)	183,635 (17.5)	...	11,957 (1.1)	47,795 (4.5)
27年3月	1,068,989	583,533 (54.6)	522,656 (48.9)	178,069 (16.7)	55,468 (5.2)	6,383 (0.6)	189,739 (17.7)	187,677 (17.6)	9,616 (0.9)	46,721 (4.4)
28年3月	1,064,352	583,704 (54.8)	525,195 (49.3)	173,629 (16.3)	57,006 (5.4)	6,165 (0.6)	189,868 (17.8)	188,053 (17.7)	8,397 (0.8)	46,057 (4.3)
29年3月	1,074,655	589,121 (54.8)	532,558 (49.6)	173,939 (16.2)	56,912 (5.3)	6,367 (0.6)	190,311 (17.7)	188,847 (17.6)	7,797 (0.7)	50,641 (4.7)
30年3月	1,061,565	581,958 (54.8)	527,996 (49.7)	169,058 (15.9)	58,083 (5.5)	6,245 (0.6)	186,289 (17.5)	184,921 (17.4)	6,987 (0.7)	53,199 (5.0)
31年3月	1,055,807	578,382 (54.8)	527,457 (50.0)	172,339 (16.3)	53,389 (5.1)	5,962 (0.6)	185,613 (17.6)	184,523 (17.5)	6,526 (0.6)	53,548 (5.1)

(注) 1 「就職者」には、大学・短大・専門学校等に進学した者のうち就職している者を含む。

- 2 大学・短期大学進学率 = $\frac{\text{大学の学部,短期大学の本科,大学・短期大学の通信教育部,同別科及び高等学校・特別支援学校高等部の専攻科に進学した者}}{\text{各年3月の高等学校卒業生及び中等教育学校後期課程卒業生}}$
- 3 卒業生に占める就職者の割合 = $\frac{\text{就職者}}{\text{各年3月の高等学校卒業生及び中等教育学校後期課程卒業生}}$

図2 高等学校卒業生の主な進路状況



- (注) 1 図中の枠囲いは、最高値である。(以下、同じ)
2 就職者割合の最高値は、昭和36年3月の64.0%。

出典：文部科学省「令和元年度学校基本調査(確定値)の公表について」

川崎市立看護大学(仮称)
受容性調査結果報告書
<高校生向け>

株式会社日本ドリコム

2020年8月27日

もくじ

1. 学生確保に関する調査概要	2
(1) 調査・目的	2
(2) 調査期間	2
(3) 調査対象・地域	2
(4) 調査方法	2
(5) 回収状況	2
(6) 本報告書について	2
(7) 協力校一覧 (31校)	3
2. 回答者属性	4
(1) 性別	4
(2) お住いの市区町村	4
(3) 高校の所在地 (都道府県)	4
3. 高校卒業後の進路や興味・関心のある学び	5
(1) 高校卒業後の進路として検討しているもの	5
(2) 興味・関心のある学問分野	7
4. 川崎市立看護大学 (仮称) について	10
(1) 本学の開学認知	10
(2) 本学への受験意向	12
(3) 本学を受験したい理由	14
(4) 本学への入学意向	17
(5) 本学を受験したいと思わない理由	20
5. まとめ	22

1. 学生確保に関する調査概要

(1) 調査・目的

本調査は、川崎市立看護大学（仮称）の新設計画に伴い、具体的に受験層である高校生を対象に進学受容性調査を行うことで入学志願者の分析を行い、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査期間

2020年6月～7月

(3) 調査対象・地域

首都圏エリアの高等学校に在籍する現役高校2年生 20,253名

(4) 調査方法

郵送アンケート調査

(5) 回収状況

3,723件（回収率 18.4%）

なお、今回協力校を募るにあたり、緊急事態宣言の解除後、5月12日に神奈川県内の私立校へ、5月28日に同県内の公立校へアンケートの協力可否を尋ねる事前調査を行った。

私立校は全52校中14校（26.9%）から協力可能との回答を得、6月5日～17日の期間でアンケートを実施いただいた。一方、公立校では全39校中12校（30.8%）から協力可能との回答を得、6月17日～22日の期間でアンケートを実施いただいた。これらの協力割合は、当初の想定を下回るものではあるが、本アンケート実施予定期間が、神奈川県教育委員会より県立高校等へ発令された分散登校期間（6月8日～6月27日）と重なったことが大きな要因である。

その後、分散登校期間等を理由に調査を実施できない旨回答のあった高等学校へ追加で調査協力を募るため、神奈川県の高校44校全てを対象に再度事前調査を行ったところ、5校から協力可能との回答を得た（11.4%）。これらの高校では、7月16日～8月3日の期間でアンケートを実施いただいた。

(6) 本報告書について

次ページより、貴学の名称は川崎市立看護大学（仮称）もしくは「本学」と表記している。

なお、無回答は集計対象外とした。

(7) 協力校一覧 (31校)

都道府県	高等学校名
神奈川県	鶴見高等学校/東高等学校/荏田高等学校/霧が丘高校/港北高等学校/新羽高等学校/新栄高等学校/岸根高等学校/橘高等学校/新城高等学校/住吉高等学校/生田高等学校/生田東高等学校/百合丘高等学校/麻生高等学校/川崎高等学校/大師高等学校/高津高等学校/川崎北高校/川崎総合科学高等学校/幸高等学校/橘学苑高校/白鵬女子高等学校/鶴見大学附属高等学校/聖ヨゼフ学園高等学校/武相高等学校/洗足学園高校/KTC おおぞら高等学院 溝の口
東京都	つばさ総合高等学校/日本体育大学荏原高等学校/駒沢学園女子高等学校

2. 回答者属性

(1) 性別

問1 あなたの性別を教えてください。	件数	%
全 体	3,709	100.0
女子	2,031	54.8
男子	1,678	45.2

(2) お住いの市区町村

問2 あなたのお住いの場所を教えてください。	件数	%
全 体	3,713	100.0
川崎市	1,503	40.5
横浜市	1,640	44.2
相模原市	49	1.3
その他	521	14.0

※「その他」の回答としては、「藤沢市」「鎌倉市」「大和市」「横須賀市」「大田区」「町田市」「品川区」「多摩市」「世田谷区」「八王子市」「府中市」などがあつた。

(3) 高校の所在地（都道府県）

問3 あなたの通っている高校の所在地（都道府県）について教えてください。	件数	%
全 体	3,703	100.0
神奈川県	3,169	85.6
東京都	534	14.4

3. 高校卒業後の進路や興味・関心のある学び

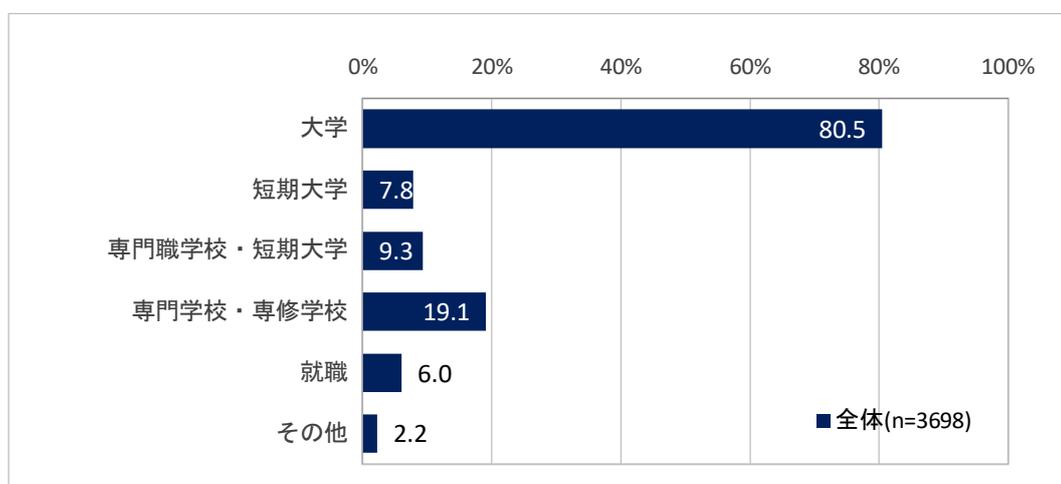
(1) 高校卒業後の進路として検討しているもの

高校卒業後に検討している進路として当てはまるものを全て尋ねたところ、「大学」の割合が特に高く、80.5%に上った。

問4 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか？ 以下の項目から当てはまるものすべてに○をつけてください。

	件数	%
全 体	3,698	100.0
大学	2,978	80.5
短期大学	288	7.8
専門職大学・短期大学	344	9.3
専門学校・専修学校	708	19.1
就職	222	6.0
その他	81	2.2

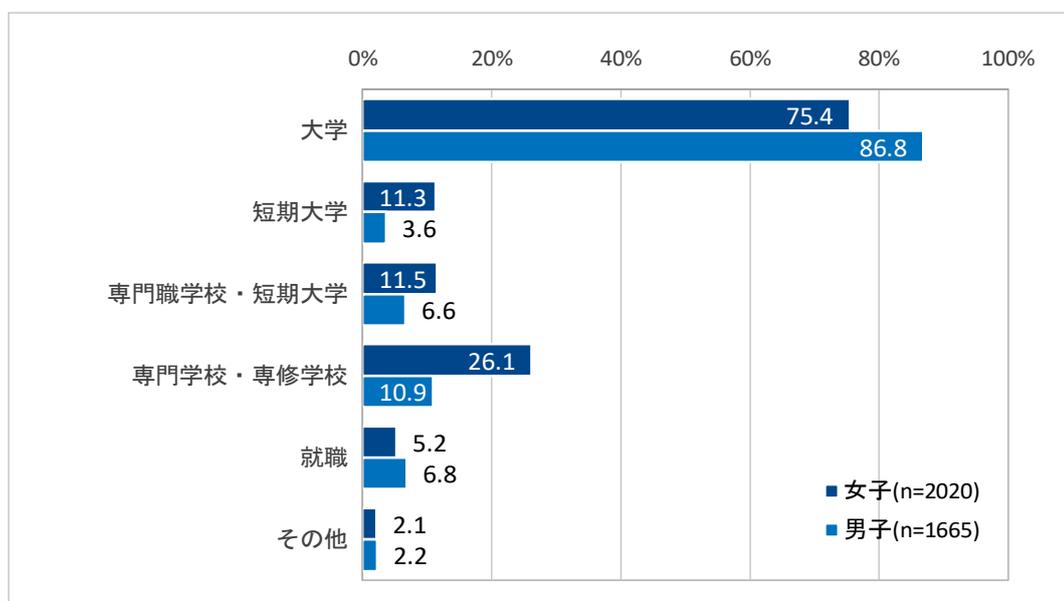
※「その他の回答」としては、「未定・まだ考えていない」「留学したい」などがあつた。



● 男女別クロス集計

男女別にみると、男子の方が「大学」への進学を検討している割合が高く、86.8%。ただし、女性も75.4%と高い結果になっている。

		全 体	大 学	短 期 大 学	短 期 大 学 専 門 職 業 大 学 ・	専 門 学 校 ・ 専 修 学 校	就 職	そ の 他
女子	件	2,020	1,523	228	233	527	106	43
	%	100.0	75.4	11.3	11.5	26.1	5.2	2.1
男子	件	1,665	1,445	60	110	181	114	37
	%	100.0	86.8	3.6	6.6	10.9	6.8	2.2



(2) 興味・関心のある学問分野

全回答者の興味・関心のある学問分野では、「理学・工学・情報学」「経済学・経営学・商学」「心理学」が上位3つ。「看護学」は13.4%であり、5番目に人気の学問分野となっていた。

問5 あなたはどのような学問に興味・関心がありますか？ 以下の項目から興味・関心がある学問すべてに○をつけてください。進学を希望していない方も、進学する場合を想定してお答えください。

	件数	%
全 体	3,658	100.0
理学・工学・情報学	674	18.4
経済学・経営学・商学	594	16.2
心理学	539	14.7
体育学・健康科学	500	13.7
看護学	492	13.4
教育学	420	11.5
芸術学	393	10.7
文学・歴史学	385	10.5
保育学	379	10.4
語学	360	9.8
国際関係学	360	9.8
食物学・栄養学	314	8.6
生物学	261	7.1
医療技術学	248	6.8
法学	220	6.0
化学	198	5.4
社会学	194	5.3
薬学	186	5.1
医学・歯学	160	4.4
社会福祉学	149	4.1
保健学	140	3.8
農・水産学	138	3.8
その他	216	5.9

※「その他」の回答としては、「獣医学」「観光学」「ファッション・美容系」「ブライダル系」「デザイン・建築系」「ダンス・芸能・音楽系」などがあつた。

●男女別クロス集計

男女別にみると、「看護学」は女子で最も割合が高く、唯一20%を超えている。

問5 あなたはどのような学問に興味・関心がありますか？以下の項目から興味・関心がある学問すべてに○をつけてください。進学を希望していない方も、進学する場合を想定してお答えください。

	女子		男子	
	件数	%	件数	%
全 体	1,997	100.0	1,650	100.0
理学・工学・情報学	152	7.6	520	31.5
経済学・経営学・商学	214	10.7	378	22.9
心理学	343	17.2	196	11.9
体育学・健康科学	192	9.6	306	18.5
看護学	415	20.8	75	4.5
教育学	224	11.2	195	11.8
芸術学	304	15.2	88	5.3
文学・歴史学	200	10.0	185	11.2
保育学	318	15.9	60	3.6
語学	257	12.9	101	6.1
国際関係学	251	12.6	107	6.5
食物学・栄養学	244	12.2	69	4.2
生物学	112	5.6	149	9.0
医療技術学	151	7.6	97	5.9
法学	83	4.2	136	8.2
化学	55	2.8	143	8.7
社会学	78	3.9	116	7.0
薬学	111	5.6	75	4.5
医学・歯学	117	5.9	43	2.6
社会福祉学	107	5.4	42	2.5
保健学	93	4.7	46	2.8
農・水産学	59	3.0	79	4.8
その他	146	7.3	69	4.2

※学問分野の並びは、全回答者における割合が多い順。

●「大学」進学を検討している高校生に絞った場合

上記の結果を大学進学検討者に絞った場合でも、人気上位5つの並び（「理学・工学・情報学」「経済学・経営学・商学」「心理学」「体育学・健康科学」「看護学」）は変わらず。なお、大学進学検討者において、「看護学」の割合は13.4%だった。

問5 あなたはどのような学問に興味・関心がありますか？ 以下の項目から興味・関心がある学問すべてに○をつけてください。進学を希望していない方も、進学する場合を想定してお答えください。

	件数	%
全 体	2,941	100.0
理学・工学・情報学	598	20.3
経済学・経営学・商学	544	18.5
心理学	467	15.9
体育学・健康科学	424	14.4
看護学	393	13.4
教育学	374	12.7
芸術学	291	9.9
文学・歴史学	353	12.0
保育学	221	7.5
語学	325	11.1
国際関係学	334	11.4
食物学・栄養学	234	8.0
生物学	219	7.4
医療技術学	206	7.0
法学	201	6.8
化学	186	6.3
社会学	182	6.2
薬学	170	5.8
医学・歯学	130	4.4
社会福祉学	106	3.6
保健学	123	4.2
農・水産学	122	4.1
その他	104	3.5

※学問分野の並びは、全回答者における割合が多い順。

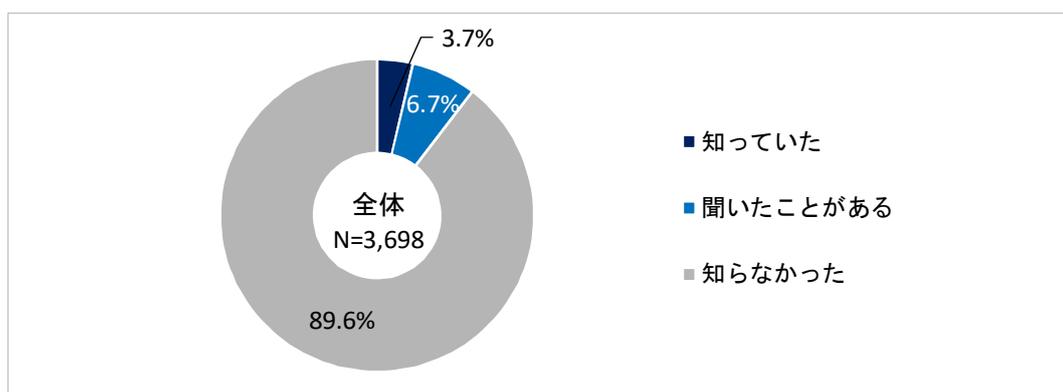
4. 川崎市立看護大学（仮称）について

(1) 本学の開学認知

川崎市が新設を計画している川崎市立看護大学（仮称）について、「知っていた」が3.7%、「聞いたことがある」が6.7%と、認知している割合は合わせて約1割。

問6 あなたは川崎市立看護大学が開学するのをご存じでしたか？ 一番近いもの1つに○をつけてください。

	件数	%
全 体	3,698	100.0
知っていた	135	3.7
聞いたことがある	248	6.7
知らなかった	3,315	89.6

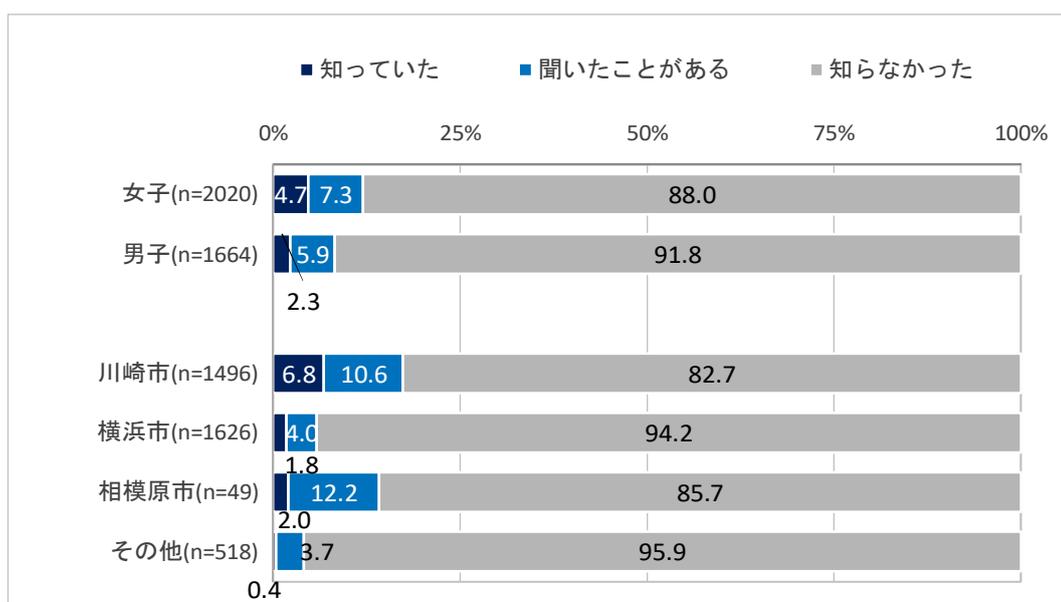


● 男女別・お住いの市区町村別クロス集計

本学の認知について、男女別で大きな差異はみられないが、女子の方が、「知っていた」割合がやや高い。

また、お住いの市区町村別では、川崎市立看護短期大学の所在地である川崎市での認知割合が高く、「知っていた」が6.8%、「聞いたことがある」が10.6%。

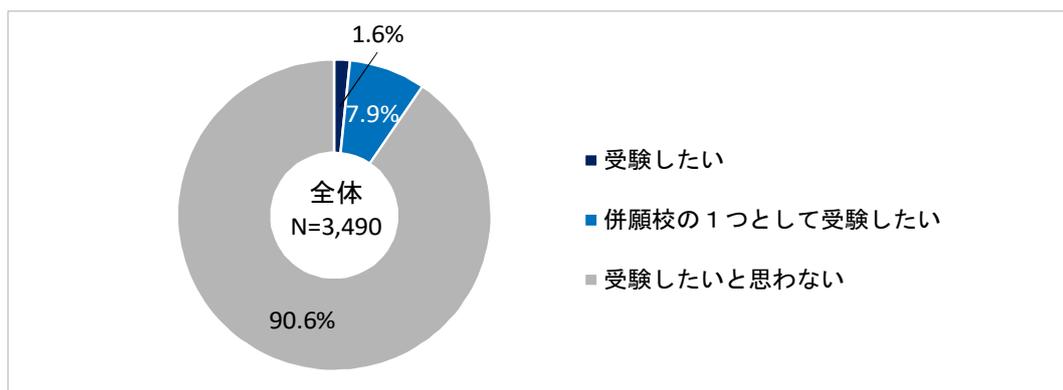
			全 体	知 っ て い た	あ る 聞 い た こ と が	知 ら な か っ た
男 女 別	女子	件	2,020	95	148	1,777
		%	100.0	4.7	7.3	88.0
	男子	件	1,664	39	98	1,527
		%	100.0	2.3	5.9	91.8
お 住 い の 市 区 町 村 別	川崎市	件	1,496	101	158	1,237
		%	100.0	6.8	10.6	82.7
	横浜市	件	1,626	30	65	1,531
		%	100.0	1.8	4.0	94.2
	相模原市	件	49	1	6	42
		%	100.0	2.0	12.2	85.7
	その他	件	518	2	19	497
		%	100.0	0.4	3.7	95.9



(2) 本学への受験意向

問4の卒業後の進路について、大学・短期大学・専門職大学・短期大学・専門学校・専修学校のいずれかを検討していると回答した高校2年生に対し、川崎市立看護大学（仮称）への受験意向を尋ねた。すると、「受験したい」が55名1.6%であった。また、「併願校の1つとして受験したい」は274名7.9%となり、計329名9.5%の高校2年生が本学について受験したい・併願校の1つとして受験したいという意向を持っていることがわかった。

問7 あなたは、川崎市立看護大学（仮称）を受験したいと思いますか？ 一番近いもの1つに○をつけてください。	件数	%
全 体	3,490	100.0
受験したい	55	1.6
併願校の1つとして受験したい	274	7.9
受験したいと思わない	3,161	90.6

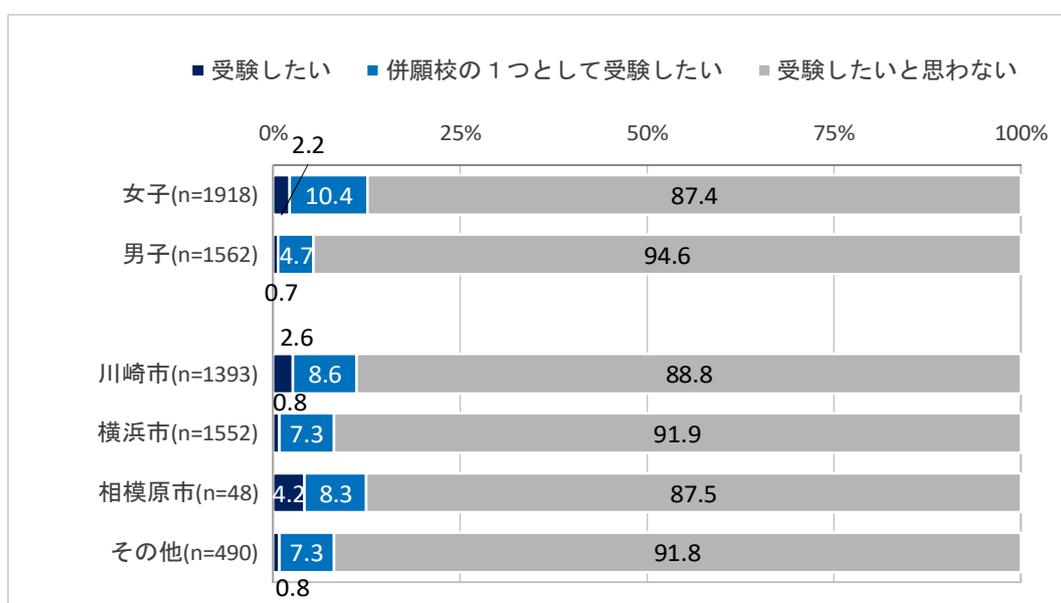


● 男女別・お住いの市区町村別クロス集計

男女別では、女子において受験意向が高く、「受験したい」42名2.2%、「併願校の1つとして受験したい」200名10.4%。

また、お住いの市区町村では、川崎市の高校2年生において、「受験したい」36名2.6%、「併願校の1つとして受験したい」120名8.6%となっている。

			全 体	受 験 し た い	併 願 校 の 1 つ と し て 受 験 し た い	受 験 し た い と 思 わ な い
男女別	女子	件	1,918	42	200	1,676
		%	100.0	2.2	10.4	87.4
	男子	件	1,562	11	74	1,477
		%	100.0	0.7	4.7	94.6
お住いの市区町村別	川崎市	件	1,393	36	120	1,237
		%	100.0	2.6	8.6	88.8
	横浜市	件	1,552	12	114	1,426
		%	100.0	0.8	7.3	91.9
	相模原市	件	48	2	4	42
		%	100.0	4.2	8.3	87.5
	その他	件	490	4	36	450
		%	100.0	0.8	7.3	91.8

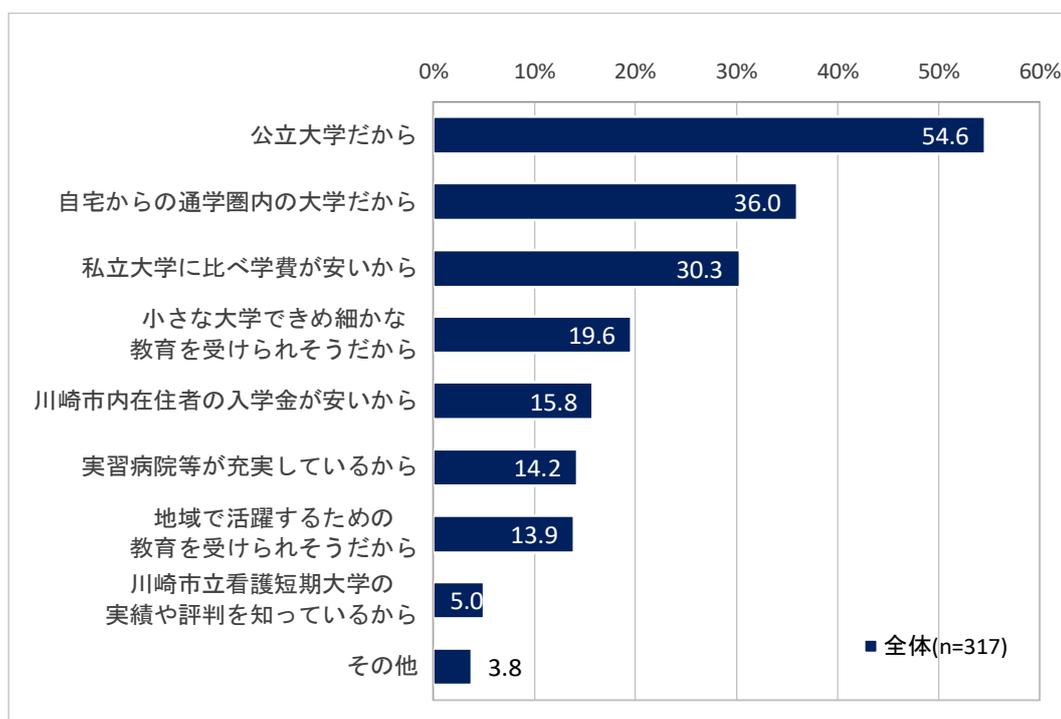


(3) 本学を受験したい理由

問7で本学を「受験したい」「併願校の1つとして受験したい」と回答した高校2年生に対してその理由を尋ねたところ、「公立大学だから」が最も高く、54.6%だった。その次は「自宅からの通学圏内の大学だから」36.0%、「私立大学に比べ学費が安いから」30.3%と続く。

理由	件数	%
全体	317	100.0
公立大学だから	173	54.6
自宅からの通学圏内の大学だから	114	36.0
私立大学に比べ学費が安いから	96	30.3
小さな大学できめ細かな教育を受けられそうだから	62	19.6
川崎市内在住者の入学金が安いから	50	15.8
実習病院等が充実しているから	45	14.2
地域で活躍するための教育を受けられそうだから	44	13.9
川崎市立看護短期大学の実績や評判を知っているから	16	5.0
その他	12	3.8

※「その他」の回答としては、「看護に興味があるから・看護師になりたいから」「国家資格が取得できるから」「卒業後、川崎市立病院へ就職できるから」「他大学と比べて、設備等が整っているから」「候補の1つとして見ておきたいから」などがあつた。

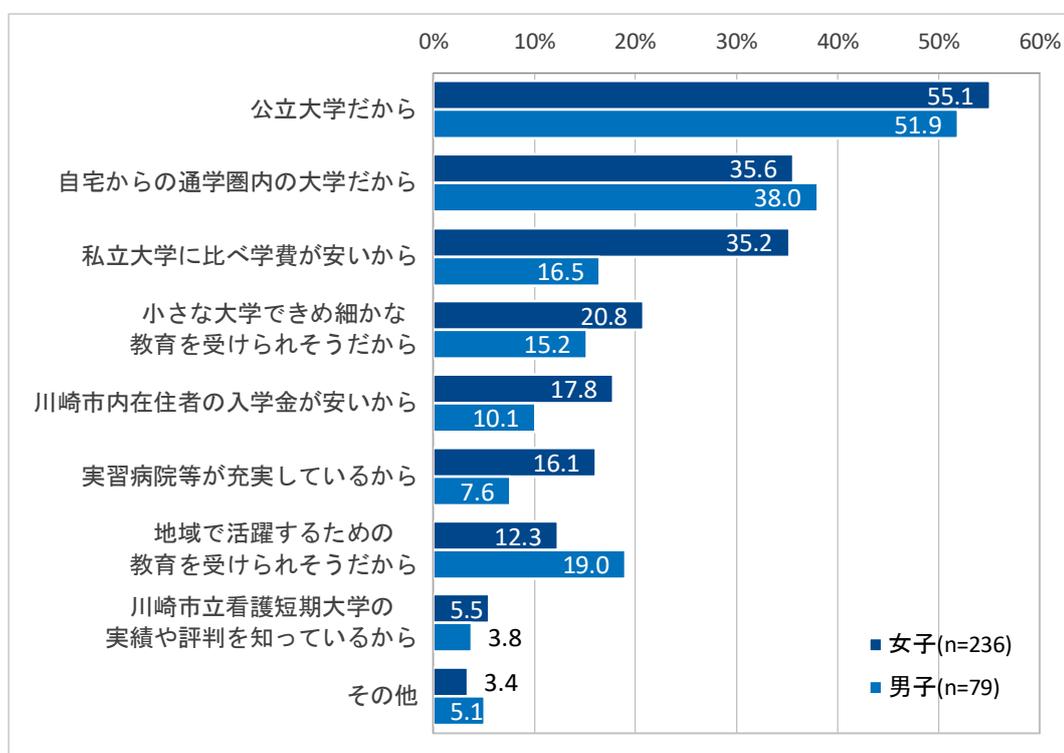


●男女別クロス集計

女子の方が「私立大学に比べ学費が安いから」「川崎市内在住者の入学金が安いから」といった、費用面での理由が高い。また、「小さな大学できめ細かな教育を受けられそうだから」「実習病院等が充実しているから」という、教育環境における理由も高くなっている。

一方、男子では、「地域で活躍するための教育を受けられそうだから」の割合が女子よりも5ポイント以上高い。

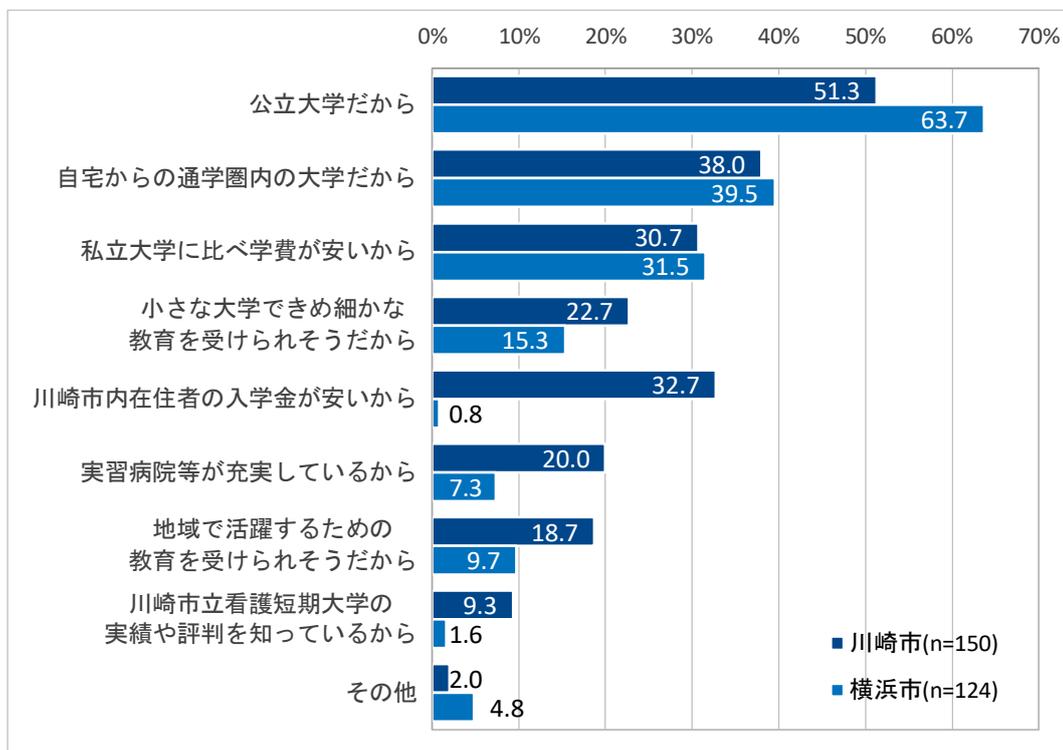
	全体	公立大学だから	自宅からの通学圏内の大学だから	私立大学に比べ学費が安いから	小さな大学できめ細かな教育を受けられそうだから	川崎市内在住者の入学金が安いから	実習病院等が充実しているから	地域で活躍するための教育を受けられそうだから	川崎市立看護短期大学の実績や評判を知っているから	その他
女子	件 236 % 100.0	130 55.1	84 35.6	83 35.2	49 20.8	42 17.8	38 16.1	29 12.3	13 5.5	8 3.4
男子	件 79 % 100.0	41 51.9	30 38.0	13 16.5	12 15.2	8 10.1	6 7.6	15 19.0	3 3.8	4 5.1



● お住いの市区町村別クロス集計

市区町村別でみると、川崎市にお住いの高校2年生で「川崎市内在住者の入学金が安いから」が32.7%と他市区町村よりも高い。また、横浜市では、「公立大学だから」との理由が63.7%と特に高かった。なおグラフは、母数が100件以上の川崎市と横浜市の2市のみ抜粋している。

	全体	公立大学だから	自宅からの通学圏内の大学だから	私立大学に比べ学費が安いから	小さな大学できめ細かな教育を受けられそうだから	川崎市内在住者の入学金が安いから	実習病院等が充実しているから	地域で活躍するための教育を受けられそうだから	川崎市立看護短期大学の実績や評判を知っているから	その他
川崎市	件 150 % 100.0	77 51.3	57 38.0	46 30.7	34 22.7	49 32.7	30 20.0	28 18.7	14 9.3	3 2.0
横浜市	件 124 % 100.0	79 63.7	49 39.5	39 31.5	19 15.3	1 0.8	9 7.3	12 9.7	2 1.6	6 4.8
相模原市	件 6 % 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	0 0.0	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0
その他	件 36 % 100.0	15 41.7	7 19.4	10 27.8	7 19.4	0 0.0	4 11.1	2 5.6	0 0.0	3 8.3

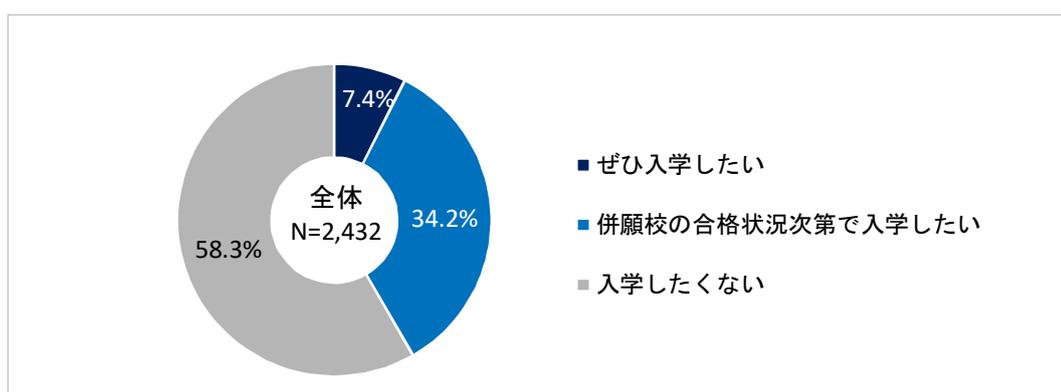


(4) 本学への入学意向

問4の卒業後の進路について、大学・短期大学・専門職大学・短期大学・専門学校・専修学校のいずれかを検討していると回答した高校2年生に対し、本学を受験し、合格した場合の入学意向を尋ねたところ、「ぜひ入学したい」は181名7.4%だった。また、「併願校の合格状況次第で入学したい」は832名34.2%となり、計1,013名41.6%の高校2年生が本学に入学したい・併願校の合格状況次第で入学したいという意向を持っていることがわかった。

問9 あなたが川崎市立看護大学（仮称）を受験して合格した場合、入学したいと思いますか？ 一番近いもの1つに○をつけてください。

	件数	%
全体	2,432	100.0
ぜひ入学したい	181	7.4
併願校の合格状況次第で入学したい	832	34.2
入学したくない	1,419	58.3

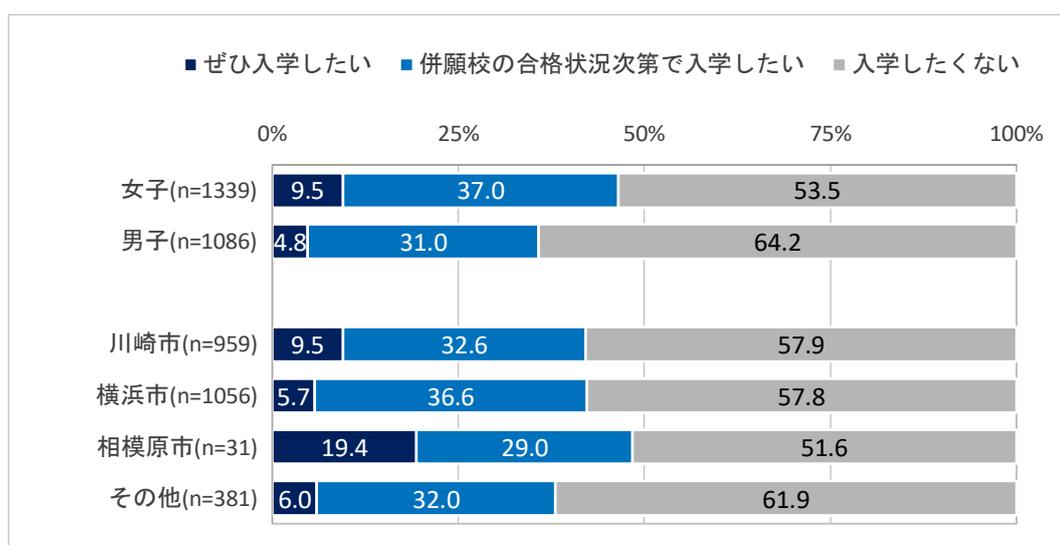


● 男女別・お住いの市区町村別クロス集計

男女別にみると、「ぜひ入学したい」は女子 127 名 9.5% に対し、男子は 52 名 4.8%。また、「併願校の合格状況次第で入学したい」では女子 495 名 37.0% に対し、男子は 337 名 31.0% である。

また、お住いの市区町村では、川崎市の高校 2 年生において、「ぜひ入学したい」91 名 9.5%、「併願校の合格状況次第で入学したい」313 名 32.6% となっている。

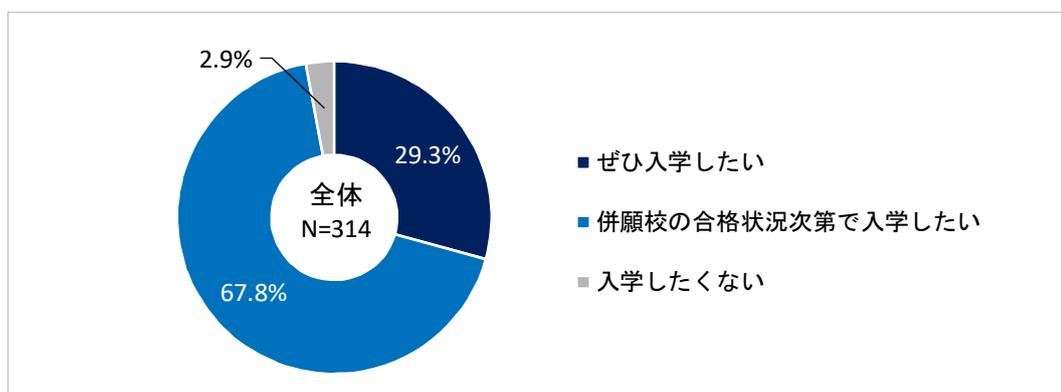
			全 体	ぜ ひ 入 学 し た い	併 願 校 の 合 格 状 況 次 第 で 入 学 し た い	入 学 し た く な い
男女別	女子	件	1,339	127	495	717
		%	100.0	9.5	37.0	53.5
	男子	件	1,086	52	337	697
		%	100.0	4.8	31.0	64.2
お住いの市区町村別	川崎市	件	959	91	313	555
		%	100.0	9.5	32.6	57.9
	横浜市	件	1,056	60	386	610
		%	100.0	5.7	36.6	57.8
	相模原市	件	31	6	9	16
		%	100.0	19.4	29.0	51.6
	その他	件	381	23	122	236
		%	100.0	6.0	32.0	61.9



● 「受験したい」「併願校の1つとして受験したい」高校生に絞った場合

上記の結果を、問7の受験意向に「受験したい」「併願校の1つとして受験したい」と回答した高校2年生に絞ると、「ぜひ入学したい」は92名29.3%。また、「併願校の合格状況次第で入学したい」は213名67.8%であった。

問9 あなたが川崎市立看護大学（仮称）を受験して合格した場合、入学したいと思いますか？ 一番近いもの1つに○をつけてください。	件数	%
全 体	314	100.0
ぜひ入学したい	92	29.3
併願校の合格状況次第で入学したい	213	67.8
入学したくない	9	2.9



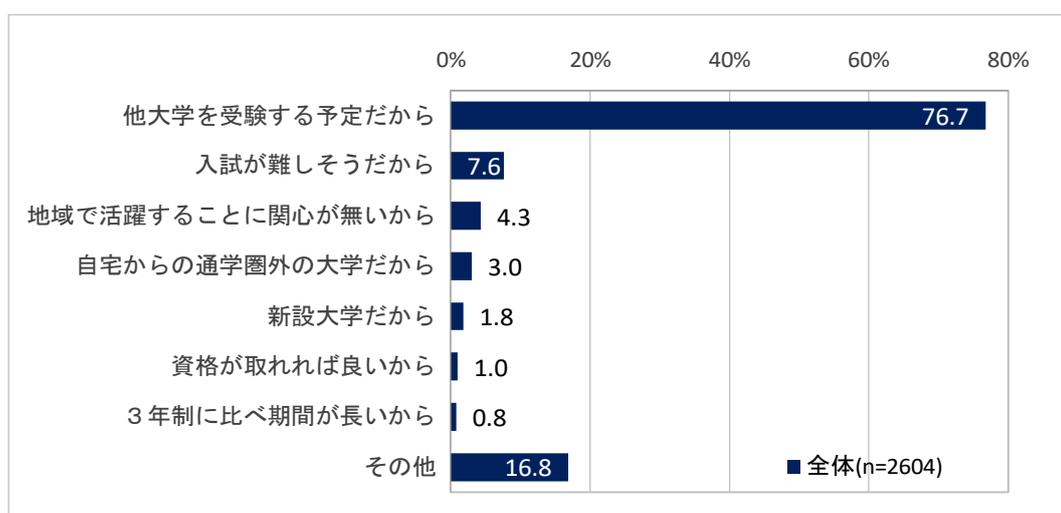
(5) 本学を受験したいと思わない理由

問7で本学を「受験したいと思わない」と回答した高校2年生に対し、その理由を尋ねたところ、「他大学を受験する予定だから」が特に高く、76.7%。

問10 問7で「3.受験したいと思わない」と回答した方にお尋ねします。あなたが「受験したいと思わない」と回答した理由にあてはまる番号すべてに○をつけてください。

	件数	%
全 体	2,604	100.0
他大学を受験する予定だから	1,997	76.7
入試が難しそうだから	199	7.6
地域で活躍することに関心が無いから	113	4.3
自宅からの通学圏外の大学だから	77	3.0
新設大学だから	47	1.8
資格が取れば良いから	27	1.0
3年制に比べ期間が長いから	21	0.8
その他	437	16.8

※「その他」の回答としては、「看護分野に興味がないから・自分の進みたい分野と異なるから」「まだ進路を決めていないから」「どのような大学なのか、詳しく知らないから・今回初めて聞いた大学なので」「神奈川県のある大学に行く気がないから」「総合大学ではないから」「短期大学で十分だから」などがあつた。



●クロス集計（男女別・お住いの市区町村別）

受験したいと思わない理由を男女別にみると、男子において「地域で活躍することに関心が無いから」がやや高い。

また、お住いの市区町村別では、川崎市において「他大学を受験する予定だから」が80.1%と、特に高かった。

		全 体	他 大 学 を 受 験 す る 予 定 だ か ら	入 試 が 難 し そ う だ か ら	地 域 で 活 躍 す る こ と に 関 心 が 無 い か ら	自 宅 か ら の 通 学 圏 外 の 大 学 だ か ら	新 設 大 学 だ か ら	資 格 が 取 れ ば 良 い か ら	長 い か ら 3 年 制 に 比 べ 期 間 が	そ の 他
男女別	女子	件 1,356 % 100.0	1,042 76.8	110 8.1	37 2.7	42 3.1	30 2.2	13 1.0	10 0.7	247 18.2
	男子	件 1,241 % 100.0	951 76.6	89 7.2	75 6.0	35 2.8	17 1.4	14 1.1	11 0.9	188 15.1
お住いの市区町村別	川崎市	件 1,041 % 100.0	834 80.1	66 6.3	42 4.0	7 0.7	11 1.1	7 0.7	7 0.7	175 16.8
	横浜市	件 1,156 % 100.0	868 75.1	105 9.1	59 5.1	30 2.6	22 1.9	14 1.2	10 0.9	185 16.0
	相模原市	件 39 % 100.0	27 69.2	5 12.8	0 0.0	3 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 17.9
	その他	件 364 % 100.0	265 72.8	22 6.0	11 3.0	36 9.9	14 3.8	6 1.6	4 1.1	70 19.2

5. まとめ

これまでのアンケート調査結果から、川崎市立看護大学（仮称）に対する高校生の入学意向者数を算出し、以下にまとめた。

今回回答を得た全 3,723 件から無回答を除いた 3,698 件のうち、問 4 の高校卒業後の進路として検討しているもので「大学」「短期大学」「専門職大学・短期大学」「専門学校・専修学校」のいずれかに回答した現高校 2 年生は、3,508 名だった。

そのうち、問 7 で本学について「受験したい」「併願校の 1 つとして受験したい」と回答したのが、329 名。

また、その 329 名から無回答を除いた 314 名のうち、問 9 で本学を受験して合格した場合、「ぜひ入学したい」と回答したのは 92 名、「併願校の合格状況次第で入学したい」と回答したのは 213 名である。

問 4：高校卒業後の進路で検討しているものとして、「大学」「短期大学」「専門職大学・短期大学」「専門学校・専修学校」のいずれかに回答	
3,508 名	
↓	
問 7：本学に「受験したい」「併願校の 1 つとして受験したい」と回答	
329 名	
↓	
問 9 で「ぜひ入学したい」と回答	問 9 で「併願校の合格状況次第で入学したい」と回答
92 名	213 名

川崎市立看護大学 (仮称) 設置に関するアンケート調査票

(2020年度高校2年生対象)

川崎市は、病院だけでなく様々な場所(地域)で活躍できる看護人材を育成することを目指して、川崎市立看護短期大学を4年制大学にする取り組みを進めています。

このアンケート調査は、高校生の皆様の卒業後の進路等に関する意向や本学への興味・関心等についてお尋ねし、設置のための基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

I. あなた自身についてお聞きします。選択肢から該当する数字に1つ○をつけてください。

問1 あなたの性別を教えてください。

1 女性

2 男性

問2 あなたのお住いの場所を教えてください。

1 川崎市

2 横浜市

3 相模原市

4 その他()

問3 あなたの通っている高校の所在地(都道府県)について教えてください。

1 神奈川県

2 東京都

3 埼玉県

4 千葉県

5 静岡県

6 山梨県

7 その他()

II. 高校卒業後の進路や興味・関心がある学びについてお聞きします。

問4 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか?以下の項目からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1 大学

2 短期大学

3 専門職大学・短期大学

4 専門学校・専修学校

5 就職

6 その他()

問5 あなたはどのような学問に興味・関心がありますか?以下の項目から興味・関心がある学問すべてに○をつけてください。進学を希望していない方も、進学する場合を想定してお答えください。

1 看護学

2 保健学

3 保育学

4 体育学

5 健康科学

6 社会福祉学

7 食物学

8 栄養学

9 心理学

10 教育学

11 生物学

12 化学

13 理学

14 芸術学

15 法学

16 農・水産学

17 文学

18 語学

19 社会学

20 国際関係学

21 経済学・経営学

22 医学

23 歯学

24 その他()

※以下は、同封の川崎市立看護大学(仮称)のリーフレットをご覧いただきお答えください。

問6 あなたは、川崎市立看護大学が開学するのをご存じでしたか?一番近いもの1つに○をつけてください。

1 知っていた

2 聞いたことがある

3 知らなかった

問7 あなたは、川崎市立看護大学(仮称)を受験したいと思いますか?一番近いもの1つに○をつけてください。

1 受験したい

2 併願校の1つとして受験したい

3 受験したいと思わない

※問7で「1 受験したい」「2 併願校の1つとして受験したい」と回答した方にお尋ねします。

問8 あなたが「受験したい」と回答した理由をお答えください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1 公立大学だから

2 小さな大学できめ細やかな教育を受けられそうだから

3 地域で活躍するための教育を受けられそうだから

4 実習病院等が充実しているから

5 私立大学に比べ学費が安いから

6 川崎市内在住者の入学金が安いから

7 自宅からの通学圏内の大学だから

8 川崎市立看護短期大学の実績や評判を知っているから

9 その他()

問9 あなたが川崎市立看護大学(仮称)を受験して合格した場合、入学したいと思いませんか?一番近いもの1つに○をつけてください。

1 ぜひ入学したい

2 併願校の合格状況次第で入学したい

3 入学したくない

※問7で「3 受験したいと思わない」と回答した方にお尋ねします。

問10 あなたが「受験したいと思わない」と回答した理由にあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1 他大学を受験する予定だから

2 新設大学だから

3 資格が取れれば良いから

4 地域で活躍することに関心が無いから

5 入試が難しいから

6 3年制に比べ期間が長いから

7 自宅からの通学圏外の大学だから

8 その他()

***** 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。*****

○本学および神奈川県内大学の看護学科の学費一覧

大学	学部・学科	所在地	入学金	授業料
川崎市立看護大学(仮称)	看護学部看護学科	川崎市	市内在住者	141,000
			市外在住者	282,000
神奈川県立保健福祉大学	保健福祉学部看護学科	横須賀市	県内在住者	282,000
			県外在住者	564,000
横浜市立大学	医学部看護学科	横浜市	市内在住者	141,000
			市外在住者	282,000
慶応義塾大学	看護医療学部看護学科	藤沢市	市内在住者	200,000
			市外在住者	400,000
北里大学	看護学部看護学科	相模原市	市内在住者	500,000
			市外在住者	1,050,000
昭和大学	保健医療学部看護学科	横浜市	市内在住者	290,000
			市外在住者	580,000
関東学院大学	看護学部看護学科	横浜市	市内在住者	290,000
			市外在住者	580,000
湘南医療大学	保健医療学部看護学科	横浜市	市内在住者	330,000
			市外在住者	660,000
横浜創英大学	看護学部看護学科	横浜市	市内在住者	300,000
			市外在住者	600,000
東海大学	医学部看護学科	伊勢原市	市内在住者	300,000
			市外在住者	600,000
神奈川工科大学	看護学部看護学科	厚木市	市内在住者	200,000
			市外在住者	400,000
松蔭大学	看護学部看護学科	厚木市	市内在住者	330,000
			市外在住者	660,000
国際医療福祉大学	小田原保健医療学部看護学科	小田原市	市内在住者	300,000
			市外在住者	600,000
湘南鎌倉医療大学	看護学部看護学科	鎌倉市	市内在住者	200,000
			市外在住者	400,000

※本学の金額は予定であり、変更になる場合があります。また他大学の金額はインターネット調べです。

※なお、本調査は客観性を担保するため、株式会社日本ドリコムに集計・分析等を委託します。この調査票は無記名方式で、アンケート結果は統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表する等の目的のために使用することはありません。また、新学部・学科設置は計画中であり、名称や授業料等は正式に決まったものではなく、変更される可能性があります。

2022年4月開学(予定)

川崎市立看護大学(仮称)

看護学部(仮称) | 定員 一学年100人(予定)



看護大学はどこも一緒じゃない
ここにしかない、学びがある
大切なあなたを、大切に育てたい

1

これからの時代に求められる 看護師の養成

一生働き続けることができる看護職としての能力を身に付ける。もう一步進んで、時代の変化に対応し、どんなところでも活躍できる“求められる”人材の養成を目指していきます。

2

看護師・保健師の 国家資格取得可能

看護教育を専門とした大学として教育を実施し、卒業生は看護師の国家試験受験資格を取得出来ます。また、同じ4年間の中で看護師と併せて保健師国家試験受験資格取得も可能です(保健師コースを設置予定)。



大切なひとを、大切に育てる

本学は1学年100人、全学年でも400人の小さな大学です。そんな本学で看護師を目指す学生は、未来に向けた大切な宝物です。本学ではその“小ささ”を生かして、教員と学生の距離を縮めてきめ細やかな指導を行い、未来への宝物を大切に育てます。

公立大学だから出来る教育がある

本学は川崎市が設置する公立大学です。その強みは学費等の安さだけではありません。社会や時代に求められる看護師像を的確に掴み、対応できる人材を“川崎市をあげて”育てていきます。また、公立大学だから準備できる多彩な実習先により、幅広い経験による、より実践的な教育を行います。

こんな人材を育てたい

人に寄り添える豊かな人間性を持つ。先見性、柔軟性、創造性を備え、協働する力を持つ。生命をいつくしみ、高い倫理性を持つ。根拠に基づき考えることが出来る。これらは社会人としても看護師としても重要な要素です。これらの力を持って、地域の発展に貢献できる人材となるように育てていきます。

「ありがとう」と言われる場は広がり続けている

看護師の活躍の場は、病院はもちろんのこと、保育園や幼稚園、高齢者、障害者のための施設や、訪問看護ステーションや介護福祉との複合施設、行政の保健師など、広がり続けています。地域の人々の生活を支え感謝される、そんな人材の育成を目指します。

ACCESS

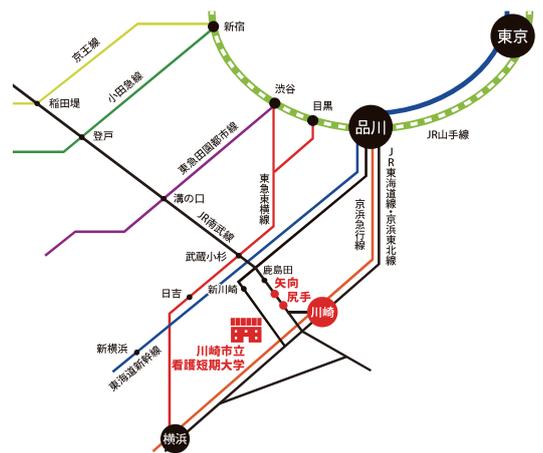
徒歩 JR 南武線矢向駅から約 15 分

バス 各バスいずれも「末吉橋」下車徒歩 3 分
JR 川崎駅西口から

- ・バス乗場 59 番 … 臨港バス川 53「元住吉(末吉橋経由)」行または川 57「末吉橋矢向循環」
 - ・バス乗場 60 番 … 臨港バス川 51「綱島駅」行
- (JR 南武線「尻手駅」バス乗り場からも同様に乗車できます)

東急東横線綱島駅東口から

- ・バス乗場 6 番 … 臨港バス川 51「川崎駅西口」行



お問い合わせ先

川崎市立看護短期大学 看護大学設置準備担当

〒212-0054 神奈川県川崎市幸区小倉 4-30-1
TEL.044-587-3534

※ 設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

既設の看護短期大学における入学者の概要

(単位 人)

年度	平成28 (2016)	平成29 (2017)	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	5か年平均
入学者数【A】	80	78	95	80	73	81
<内訳>						
市内入学者数【B】	31	30	31	27	29	30
神奈川県内(市外)入学者数	18	24	33	28	23	25
神奈川県外入学者数【C】	31	24	31	25	21	26
市内入学者割合【B/A】	39%	38%	33%	34%	40%	37%
神奈川県外入学者割合【C/A】	39%	31%	33%	31%	29%	33%

看護基礎教育検討会報告書の概要

背景及び目的

- 人口及び疾病構造の変化や療養の場の多様化等を踏まえ、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進に向け、多職種が連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されており、その中で看護職員(※)には対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められている。
- 看護職員をとりまく状況の変化及び現在の教育実態を踏まえ、将来を担う看護職員を養成するための看護基礎教育の内容と方法について、現行の養成課程の枠組みを維持しつつ、具体的な検討を行った。※保健師、助産師、看護師、准看護師

教育内容等の見直しのポイント ※柔軟なカリキュラム編成推進のため、保健師・助産師・看護師は総時間数を示さず単位数のみ明示

【保健師】令和4年(2022年)度より適用

- ・総単位数を28単位から31単位に充実(総時間数は削除)
- ・昨今の災害の多発、児童虐待の増加等の中、疫学データ及び保健統計等を用いて地域をアセスメントし、健康課題を有する対象への継続的な支援と社会資源の活用等の実践能力を、事例を用いた演習等により強化できるよう公衆衛生看護学の内容を充実
- ・施策化能力を強化するため、保健医療福祉行政論において政策形成過程について事例を用いた演習等により充実を図るよう留意点に明記
- ・産業保健・学校保健における活動の展開や、健康危機管理等で求められる能力を演習を通して強化するよう留意点に明記

【助産師】令和4年(2022年)度より適用

- ・総単位数を28単位から31単位に充実(総時間数は削除)
- ・助産師特有のテクニカル・スキル(手技)を技術項目とし、卒業時の到達度を新たに策定
- ・周産期のメンタルヘルスやハイリスク妊産婦への対応、正常からの逸脱の判断や異常を予測する臨床判断能力、緊急時に対応できる実践能力を養うために助産診断・技術学の内容を充実
- ・産後うつや虐待等の支援として、地域における子育て世代を包括的に支援する能力が求められていることから、産後4か月程度までの母子のアセスメントを行う能力を強化するために地域母子保健の内容を充実

【看護師】3年課程は令和4年(2022年)度、2年課程は令和5年(2023年)度より適用

- ・総単位数を97単位から102単位に充実(総時間数は削除)
- ・情報通信技術(ICT)を活用するための基礎的能力やコミュニケーション能力の強化に関する内容を充実
- ・臨床判断能力等に必要となる基礎的能力の強化のため解剖生理学等の内容を充実
- ・対象や療養の場の多様化に対応できるよう「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」に名称変更し、内容を充実
- ・各養成所の裁量で領域ごとの実習単位数を一定程度自由に設定できるよう、臨地実習の単位数を設定

【准看護師】令和4年(2022年)度より適用

- ・時間制及び総時間数(1,890h)を維持
- ・養成所間の教育の標準化を図るため「准看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」を新たに策定
- ・基礎分野は専門基礎及び専門分野の教育の土台となるよう、また看護師教育との連動も考慮し、教育内容を「論理的思考の基盤」「人間と生活・社会」に変更
- ・在宅等の多様な場における療養生活を支援する視点が重要であるため、基礎看護や臨地実習において留意点に追記
- ・准看護師と介護福祉士の科目履修の免除を基礎分野に限り可能とする

教育体制・教育環境等の見直しのポイント

- ・実習前後の講義や演習、振り返り等を積極的に活用し、学生が主体的に学ぶことができる教育方法の推進
- ・療養の場の多様化等を勘案した多様な実習施設における実習の推進を図るための一部要件の緩和
- ・情報通信技術(ICT)の進展等の変化に伴い、遠隔授業等の実施が可能であることの明示
- ・教員の負担軽減のため、養成所に配置すべき専任の事務職員について教員を補佐する教務事務の役割の明示
- ・受講者の利便性向上等のため、専任教員養成講習会、教務主任養成講習会、実習指導者講習会の共通内容を受講免除する仕組みの構築やeラーニング活用等の推進

今後の課題

今回の改正事項について必要な検証を行い、その結果を踏まえつつ、社会における看護職員のニーズに一層応えていくための更なる能力向上に向け、実習を含めた教育内容及び方法の継続的な検討を行う

(1)人口の将来推計

図 川崎北部の年齢区分別人口の推移

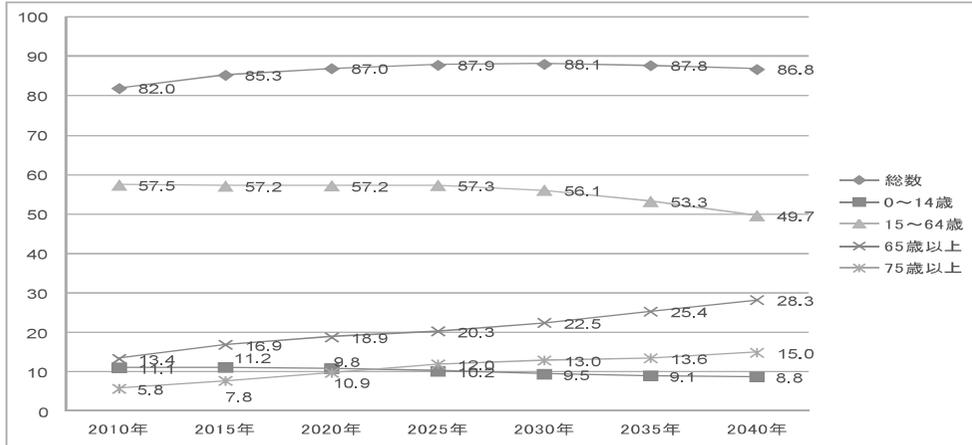
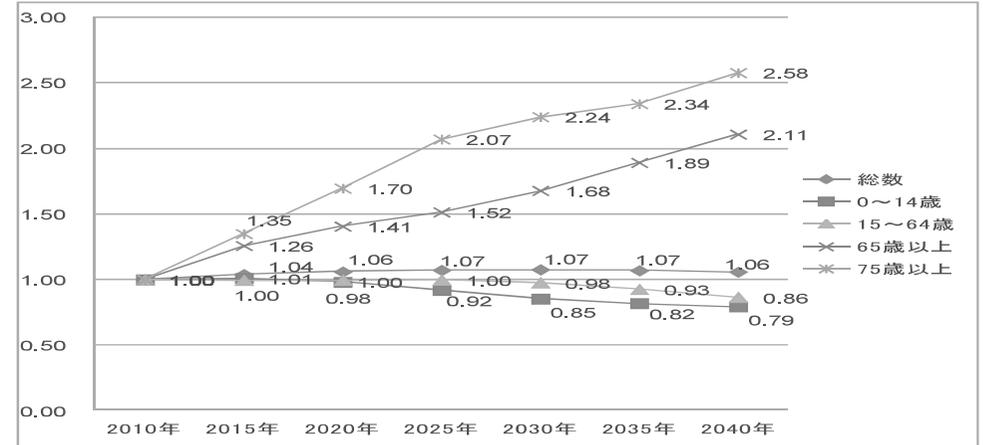


図 川崎北部の年齢区分別人口の増加率の推移(2010年基準)



<出典> 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」(平成25年3月推計)

(2)医療需要の将来推計

<入院及び在宅医療等の医療需要>

図 川崎北部の入院及び在宅医療等の医療需要

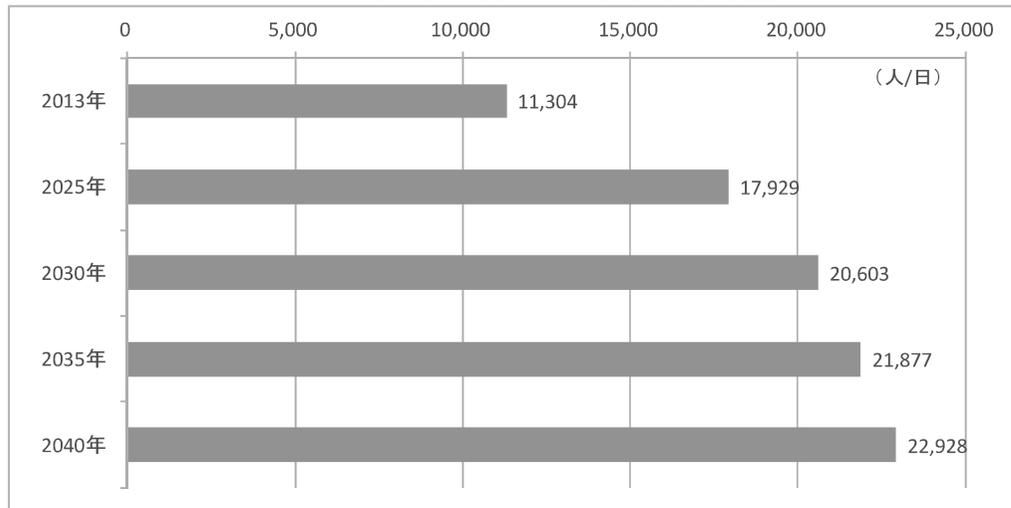
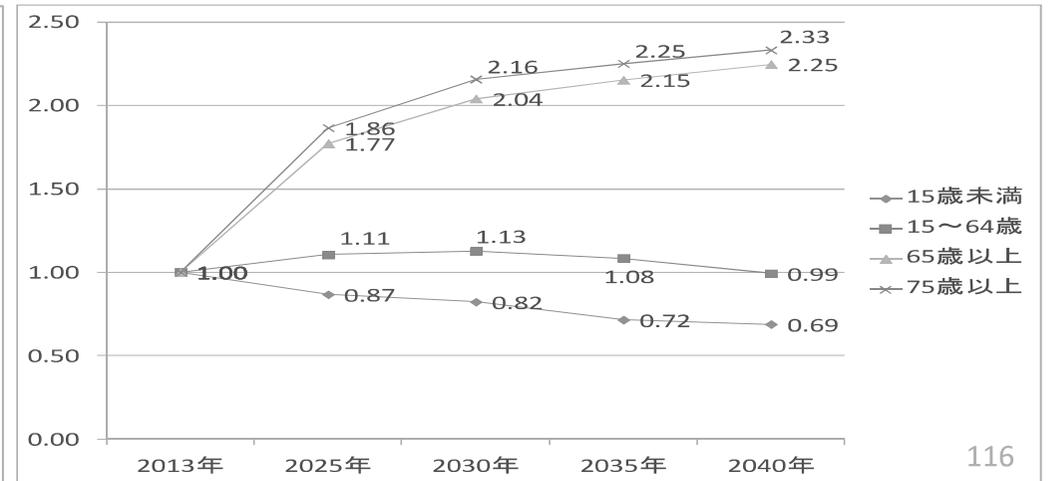


図 川崎北部の年齢階級別の医療需要の増加率の推移

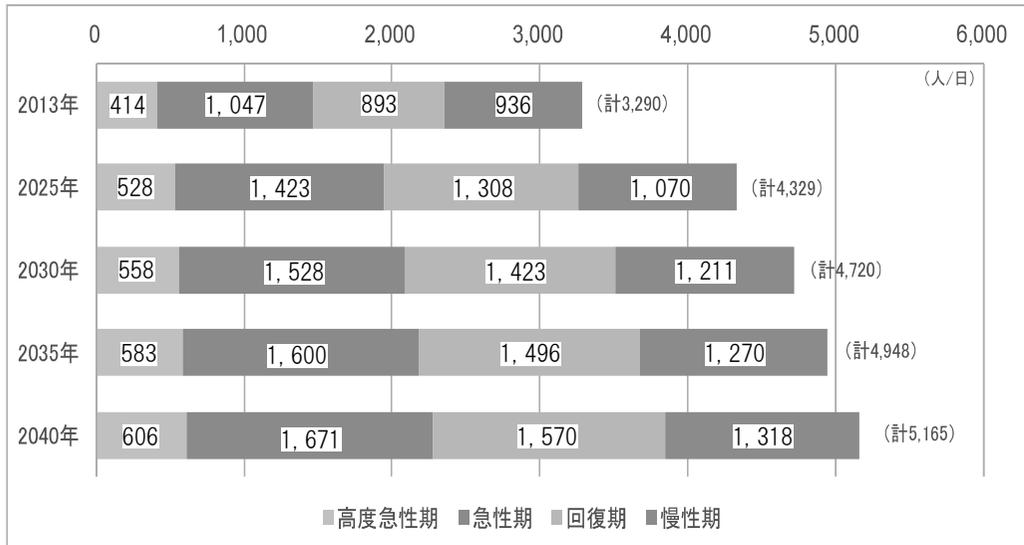


<出典> 厚生労働省 必要病床数等推計ツール(平成27年)

※ 『神奈川県地域医療構想に係るデータ集』抜粋

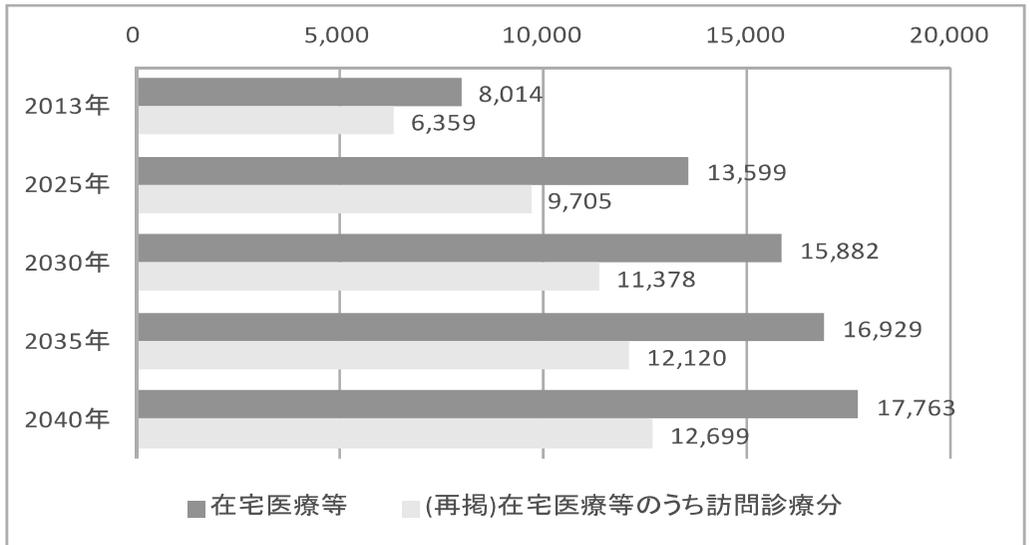
<入院医療需要>

図 川崎北部の入院医療需要の病床機能別推計



<在宅医療等の医療需要>

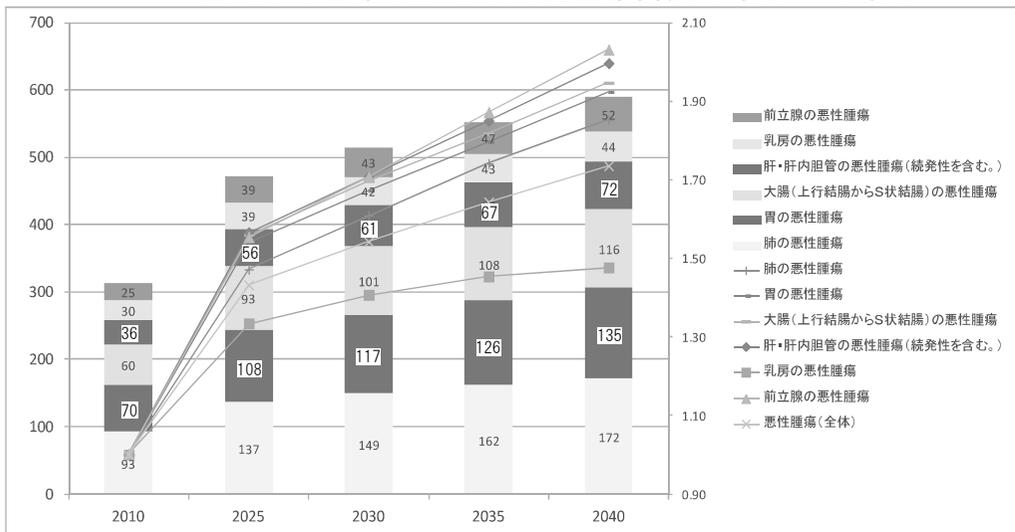
図 川崎北部の在宅医療等の医療需要の将来推計



<出典>厚生労働省 必要病床数等推計ツール (平成27年)

<がん>

図 川崎北部のがんの入院医療需要の増加率の推移



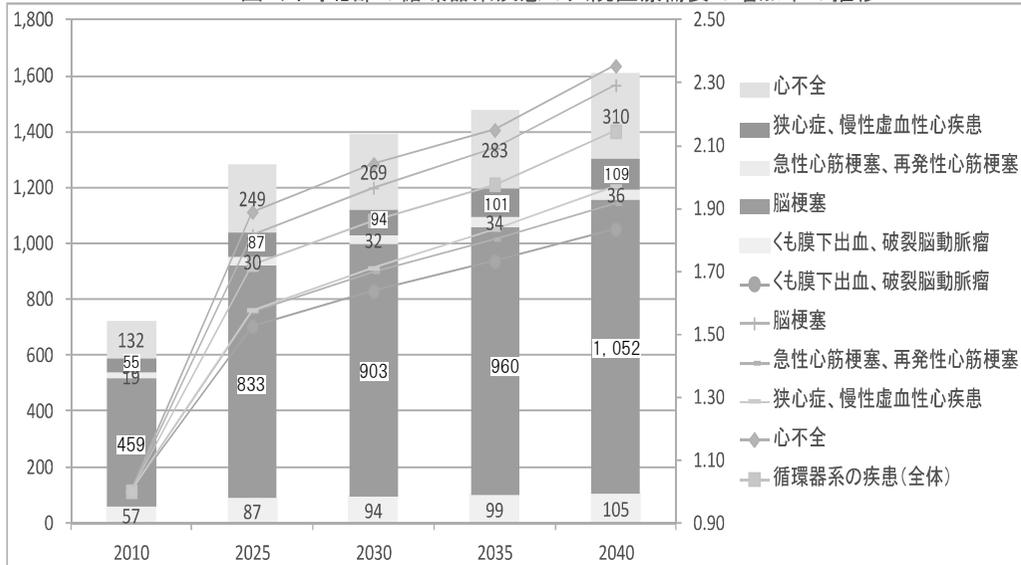
	2010	2025	2030	2035	2040
肺の悪性腫瘍	93	137	149	162	172
胃の悪性腫瘍	70	108	117	126	135
大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍	60	93	101	108	116
肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	36	56	61	67	72
乳房の悪性腫瘍	30	39	42	43	44
前立腺の悪性腫瘍	25	39	43	47	52

	2010	2025	2030	2035	2040
肺の悪性腫瘍	1.00	1.47	1.61	1.74	1.85
胃の悪性腫瘍	1.00	1.54	1.67	1.80	1.92
大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍	1.00	1.56	1.70	1.82	1.95
肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	1.00	1.57	1.71	1.85	2.00
乳房の悪性腫瘍	1.00	1.33	1.41	1.45	1.48
前立腺の悪性腫瘍	1.00	1.55	1.71	1.87	2.03
悪性腫瘍(全体)	1.00	1.43	1.54	1.64	1.74

<出典>tableau public公開資料 (<http://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/>)
石川ベンジャミン光一(国立がんセンター)作成

<急性心筋梗塞、脳卒中>

図 川崎北部の循環器系疾患の入院医療需要の増加率の推移



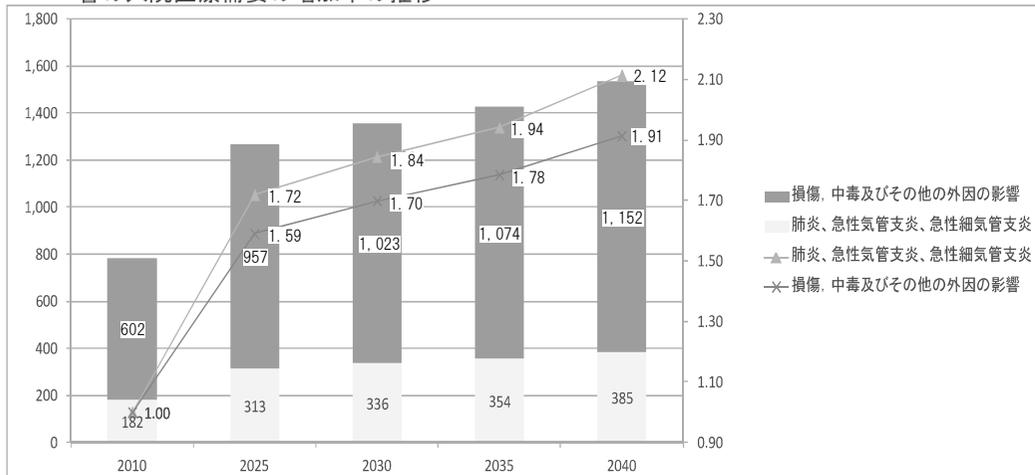
	2010	2025	2030	2035	2040
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	57	87	94	99	105
脳梗塞	459	833	903	960	1,052
急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	19	30	32	34	36
狭心症、慢性虚血性心疾患	55	87	94	101	109
心不全	132	249	269	283	310

	2010	2025	2030	2035	2040
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	1.00	1.53	1.64	1.73	1.83
脳梗塞	1.00	1.82	1.97	2.09	2.29
急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	1.00	1.57	1.70	1.80	1.92
狭心症、慢性虚血性心疾患	1.00	1.58	1.71	1.84	1.97
心不全	1.00	1.89	2.04	2.15	2.35
循環器系の疾患(全体)	1.00	1.72	1.86	1.98	2.15

<出典> tableau public公開資料 (<http://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/>)
石川ベンジャミン光一（国立がんセンター）作成

<肺炎及び骨折>

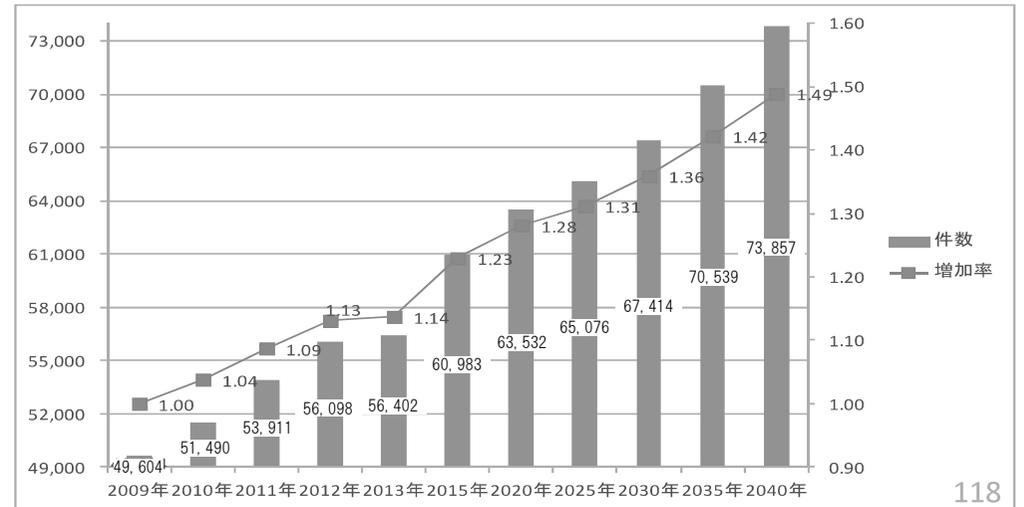
図 川崎北部の肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎及び損傷、中毒及びその他外因の影響の入院医療需要の増加率の推移



<出典> tableau public公開資料 (<http://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/>)
石川ベンジャミン光一（国立がんセンター）作成

<救急>

図 川崎市の救急搬送件数(年間)の推移



<出典> 県医療課作成

(1) 人口の将来推計

図 川崎南部の年齢区分別人口の推移

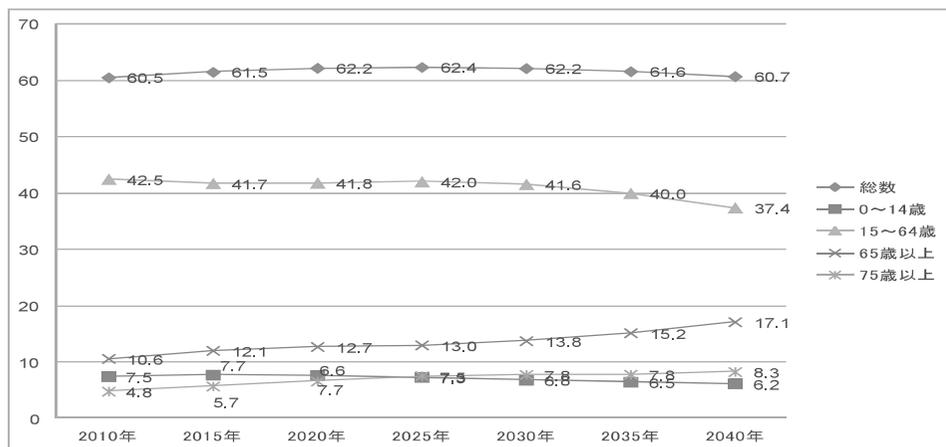
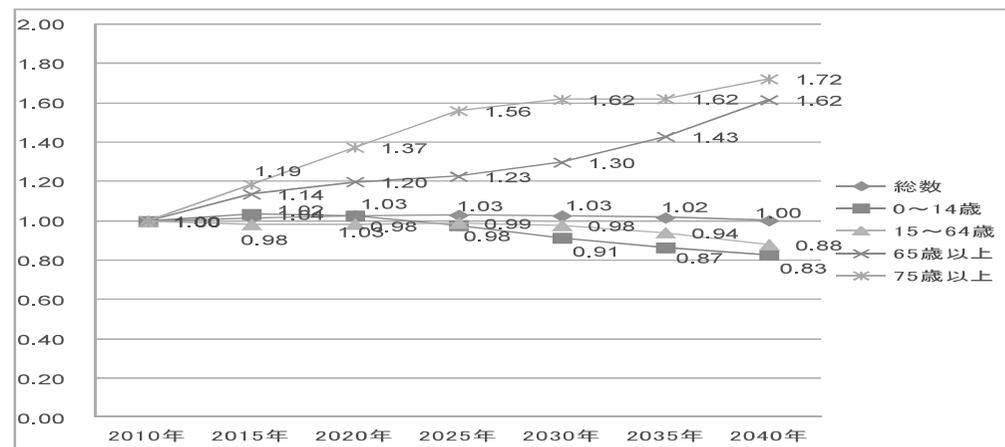


図 川崎南部の年齢区分別人口の増加率の推移(2010年基準)



<出典> 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」(平成25年3月推計)

(2) 医療需要の将来推計

<入院及び在宅医療等の医療需要>

図 川崎南部の入院及び在宅医療等の医療需要

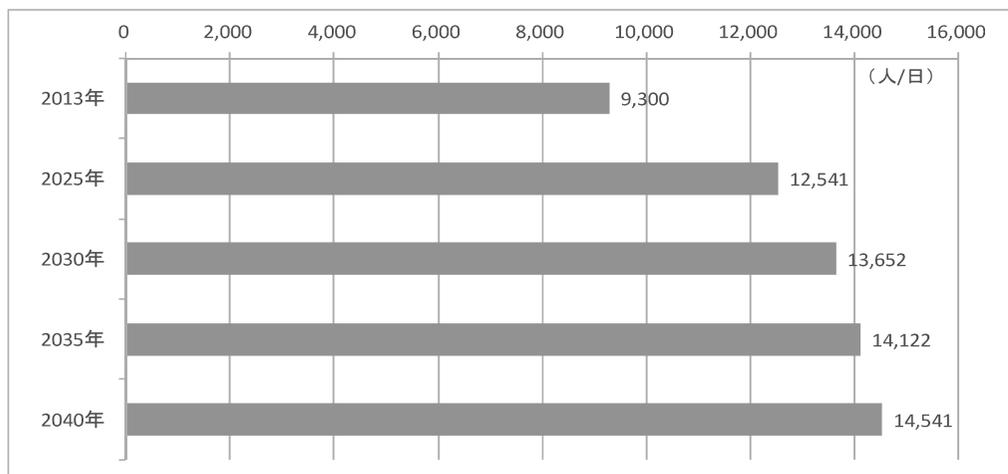
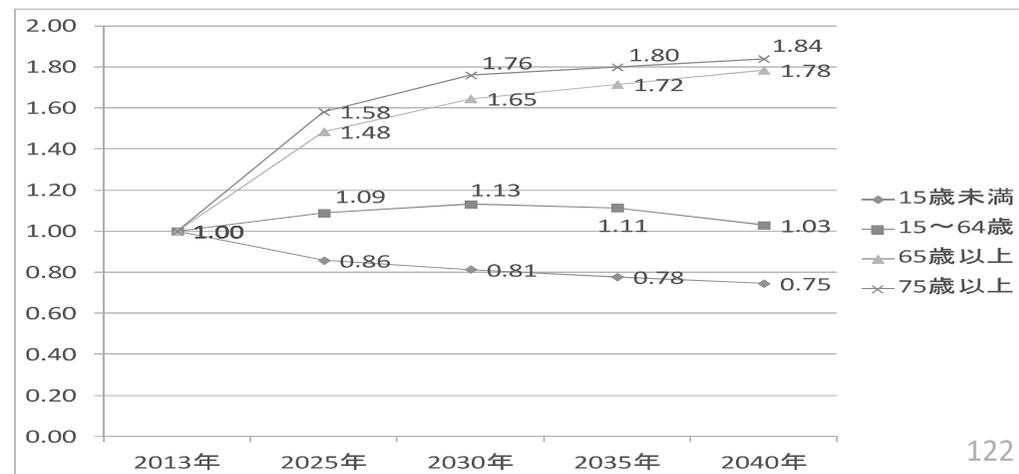


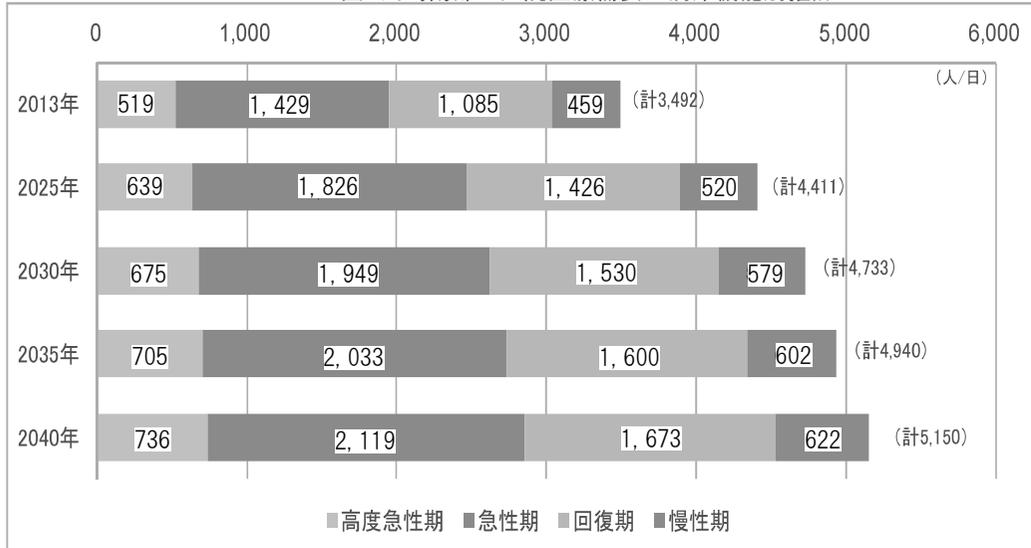
図 川崎南部の年齢階級別の医療需要の増加率の推移



<出典> 厚生労働省 必要病床数等推計ツール(平成27年)

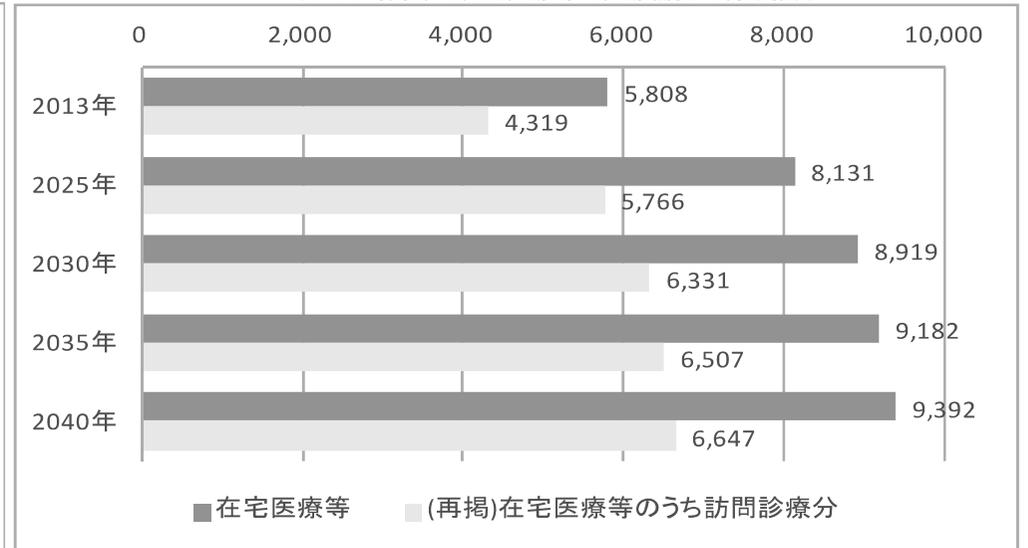
<入院医療需要>

図 川崎南部の入院医療需要の病床機能別推計



<在宅医療等の医療需要>

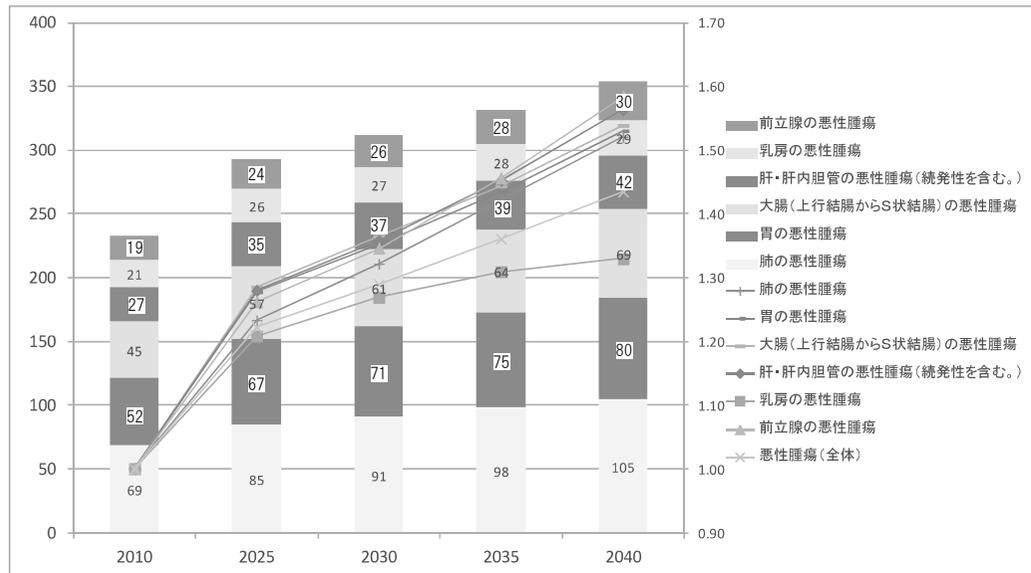
図 川崎南部の在宅医療等の医療需要の将来推計



<出典>厚生労働省 必要病床数等推計ツール (平成27年)

<がん>

図 川崎南部のがんの入院医療需要の増加率の推移



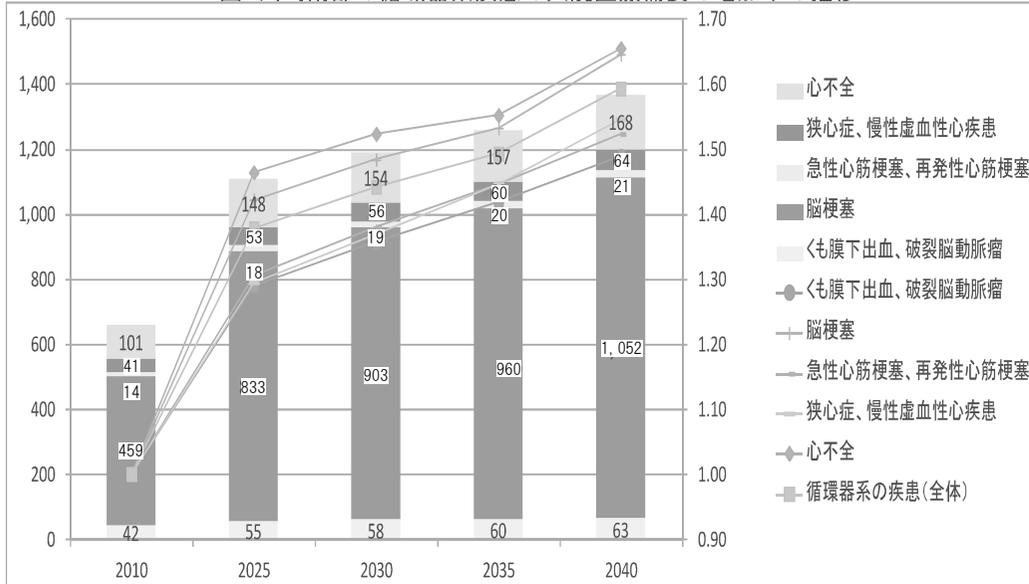
	2010	2025	2030	2035	2040
肺の悪性腫瘍	69	85	91	98	105
胃の悪性腫瘍	52	67	71	75	80
大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍	45	57	61	64	69
肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	27	35	37	39	42
乳房の悪性腫瘍	21	26	27	28	29
前立腺の悪性腫瘍	19	24	26	28	30

	2010	2025	2030	2035	2040
肺の悪性腫瘍	1.00	1.23	1.32	1.42	1.52
胃の悪性腫瘍	1.00	1.28	1.35	1.44	1.53
大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍	1.00	1.29	1.37	1.44	1.54
肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	1.00	1.28	1.36	1.45	1.56
乳房の悪性腫瘍	1.00	1.21	1.27	1.31	1.33
前立腺の悪性腫瘍	1.00	1.26	1.35	1.46	1.58
悪性腫瘍(全体)	1.00	1.22	1.29	1.36	1.44

<出典> tableau public 公開資料 (<http://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/>)
石川ベンジャミン光一 (国立がんセンター) 作成

<急性心筋梗塞、脳卒中>

図 川崎南部の循環器系疾患の入院医療需要の増加率の推移



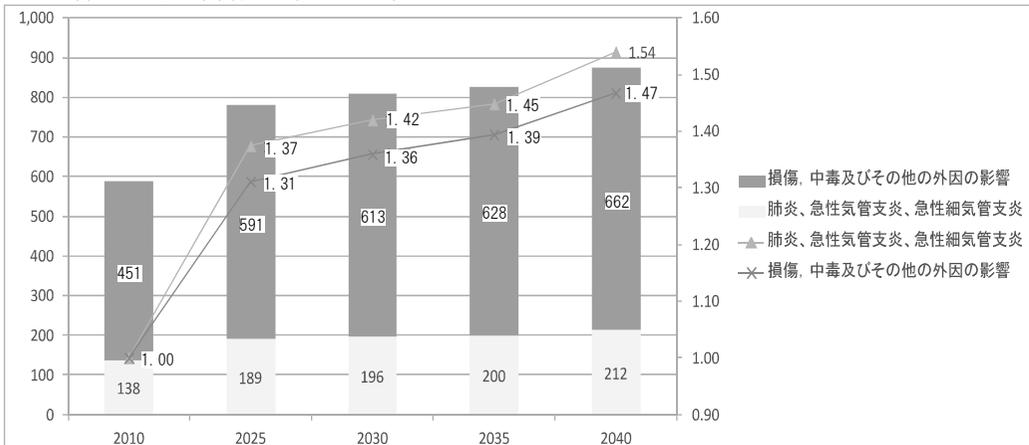
	2010	2025	2030	2035	2040
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	42	55	58	60	63
脳梗塞	459	833	903	960	1,052
急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	14	18	19	20	21
狭心症、慢性虚血性心疾患	41	53	56	60	64
心不全	101	148	154	157	168

	2010	2025	2030	2035	2040
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	1.00	1.29	1.36	1.42	1.49
脳梗塞	1.00	1.42	1.48	1.53	1.65
急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	1.00	1.31	1.38	1.45	1.52
狭心症、慢性虚血性心疾患	1.00	1.30	1.37	1.45	1.55
心不全	1.00	1.46	1.52	1.55	1.66
循環器系の疾患(全体)	1.00	1.38	1.44	1.49	1.59

<出典> tableau public公開資料 (<http://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/>)
石川ベンジャミン光一 (国立がんセンター) 作成

<肺炎及び骨折>

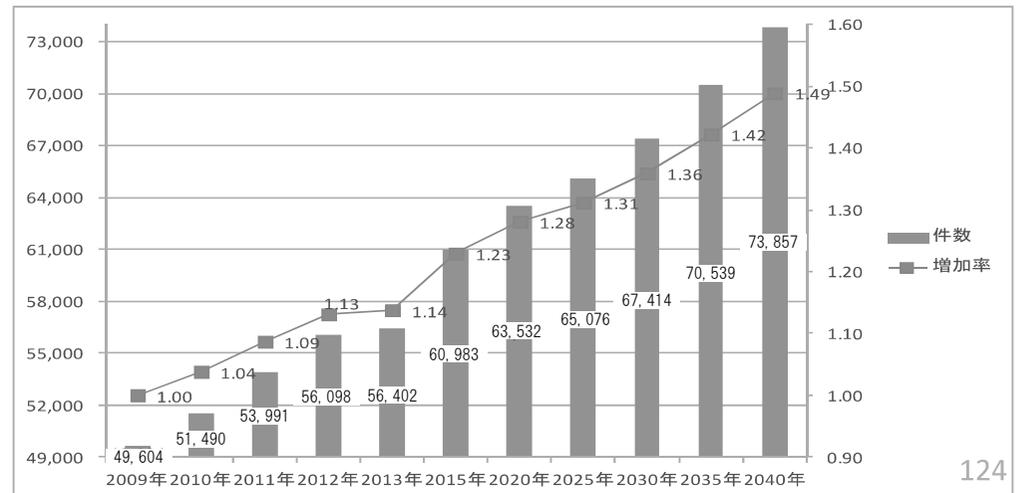
図 川崎南部の肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎及び損傷、中毒及びその他外因の影響の入院医療需要の増加率の推移



<出典> tableau public公開資料 (<http://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/>)
石川ベンジャミン光一 (国立がんセンター) 作成

<救急>

図 川崎市の救急搬送件数(年間)の推移(再掲)



<出典> 県医療課作成

神奈川県の見護職員の需給推計について

厚生労働省が設置した「医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会」において、平成31年1月に看護職員の需給推計の方法が取りまとめられ、その後、平成31年2月の厚生労働省医政局長からの通知等に基づき、本県における看護職員の需給を次のとおり推計しました。

(1) 需給推計の概要

ア 推計の対象年

2025（令和7）年時点での看護職員の需給について推計

イ 推計方法

厚労省が作成し、平成31年4月に都道府県に配布された全国統一の「推計ツール」による推計

(ア) 需要推計

各都道府県が平成28年度に策定した「地域医療構想」における2025年の必要病床数をはじめ、無床診療所、介護保険施設、訪問看護ステーション等での医療需要の予測をもとに、必要な看護職員数を推計

(イ) 供給推計

県内の看護師養成所での養成による増や、離職による減、再就業等の要素をもとに、供給される看護職員数を推計

ウ 推計結果（県報告値／令和元年8月に厚労省へ報告）

需要数	ア	109,970	（単位 人）
供給数	イ	85,084	
不足数	ア－イ	24,886	
充足率	イ／ア	77.4%	

(2) 推計結果を踏まえて

ア 推計結果の捉え方

- 需要推計の算出基礎のひとつである「地域医療構想における2025年の必要病床数」は、全国一律の病床利用率を用いて算出したものであるため、病床利用率が高い本県の利用実態に比べて、多くの病床が必要とされています。
- 今回の看護職員の需給推計では、その病床の入院患者に対応した看護職員数を算出したことも影響し、需要が多く推計されています。
- このため、厚労省の推計ツールによる推計と並行して、県の実際の

病床利用率等を用いた独自の推計を行いました。

イ 県独自の推計方法・結果

医療需要の予測値のうち、2025年の必要病床数について、全国共通ではなく県の実際の病床利用率を用いてこれを算出し、これらをもとに、必要な看護職員数を改めて推計しました。

(単位 人)

	県報告値	県独自の推計
需要数 ア	109,970	103,907
供給数 イ	85,084	85,084
不足数 アーイ	24,886	18,823
充足率 イ/ア	77.4 %	81.9 %

(3) 厚労省での結果の公表

厚労省によると、10月21日に開催された医療従事者の需給に関する検討会 第12回看護職員需給分科会の結果を踏まえ、今後の国の対策などを取りまとめた報告書を、11月中に当該分科会ホームページに掲載予定としています。なお、需給推計については、各都道府県の推計結果をベースに今後の働き方改革の進展（時短勤務者の増加、超過勤務の減少等）などの影響を加えた4つのシナリオを設定したものにより推計されます。

(単位 人)

	県報告値	公表情報			
		基本シナリオ	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③
需要数 ア	109,970	112,521	116,095	117,137	124,681
供給数 イ	85,084	85,084			
不足数 アーイ	24,886	27,437	31,011	32,053	39,597
充足率 イ/ア	77.4 %	75.6 %	73.3 %	72.6 %	68.2 %

基本シナリオ：県報告値を基に短時間勤務者の増加を考慮したもの

シナリオ①：就業中の全ての看護職員の超過勤務月10時間以内、有給休暇年5日以上

シナリオ②：就業中の全ての看護職員の超過勤務月10時間以内、有給休暇年10日以上

シナリオ③：就業中の全ての看護職員の超過勤務月 0時間、有給休暇年20日以上

(4) 今後の対応

厚労省から提示される結果と県の実態に乖離があることから、現状の実態把握に努めてまいります。また、養成所卒業者の県内定着や再就職の促進など従前からの看護職員確保の取組の強化に加え、新たな確保策を検討し、看護職員の確保に努めていきます。

平成 24 年度

川崎市予算編成などに関わる要望書

社団法人川崎市看護協会

平成 23 年 8 月

4 保健師・助産師の専門性の充実と活用について

(1) 保健師本来の専門性が発揮できるような配置等

保健師の分散配置により保健師本来の公衆衛生の視点の希薄さ、地域全体を捉える技量が弱くなっていることが危惧されています。

保健師が関わっている地域の健康課題は生活習慣病予防、介護予防、虐待対策、健康危機管理、自殺予防等多岐にわたっていますが、効果的な保健活動の展開のためには行政における保健師の位置づけを強化し、再配置や現任教育の再構築をご検討ください。

(2) 助産師の積極的な活用による安全で安心な妊娠、出産、育児の支援

ア. 分娩を取扱う医療機関が減少し、市民が安心して妊娠、出産に臨めない現状から助産所を含めた病院等の支援をお願いします。

イ. 新規助産所開業の嘱託医・嘱託医療機関の確保が円滑に進むように市立病院も含めた行政の後方支援をお願いします。

ウ. 子育ての出発点となる妊娠、出産、育児に関わる助産師の専門性が発揮できるようハイリスク妊産婦や産前産後のケアに積極的な活用をご検討ください。

5 川崎市立看護短期大学の早急な4年制大学移行の実現について

平成21年7月の「保健師・助産師・看護師法」改正（平22年4月施行）で看護師国家試験受験の資格として、大学卒業を追加・明記されることになりました。

また、平成22年3月には「川崎市立看護短期大学あり方検討会」で『4年制大学とすることが望ましい』との提案がされています。

それらを踏まえ川崎市立看護短期大学を4年制の大学に移行し、質の高い看護師の養成のためにご支援をお願いします。

6 大災害時における実効性のある対策について

この度の東日本大震災を教訓に、今後、大震災等の災害に備え現実的で実効性のある防災対策の見直しが必要です。

(平成8年川崎市看護協会は、川崎市災害対策本部から出動要請を受けた時は、医療救護所での救護活動に協力するよう協定を締結しています)

(1) 年1回の川崎市総合防災訓練では、いざという時、機能するのか不安があります。参集や連絡方法、初動等「災害マニュアル」の再検討が必要です。

(2) 災害時、在宅療養者で医療機器装着している方（在宅酸素、人工呼吸器・吸引等）また、電源を必要とする電動ベット、エアマットなどの福祉用具を使用している人の対応、支援について、平時からの連携体制や行政及び関係者との役割の明確化が必要と思われます。

川崎市立看護大学(仮称)
受容性調査結果報告書
<病院・訪問看護・介護老人施設等向け>

株式会社日本ドリコム

2021年2月22日

もくじ

1. 学生確保に関する調査概要	2
(1) 調査・目的	2
(2) 調査期間	2
(3) 調査対象・地域	2
(4) 調査方法	2
(5) 回収状況	2
(6) 本報告書について	2
2. 回答があった施設の属性	3
(1) 所在地（都道府県）	3
(2) 施設種	3
(3) 看護師の人数	3
3. 看護師の充足・採用状況	5
(1) 看護師の充足状況	5
(3) 看護師の新卒採用	9
(4) 採用にあたって重視するもの	11
4. 川崎市立看護大学（仮称）について	13
(1) 本学での人材育成方針で社会的ニーズが高いと思うもの	13
(2) 本学を卒業した看護師の採用意向	15
(3) 現時点での採用可能人数	18
(4) 採用しないと回答した理由	21
(5) 本学に期待する点や要望	21
5. まとめ	24

1. 学生確保に関する調査概要

(1) 調査・目的

本調査は、川崎市立看護大学（仮称）の新設計画に伴い、該当大学の卒業生の就職先として想定される病院・訪問看護・介護老人施設等へ本計画に対する関心度及び現在の採用状況を尋ね社会的ニーズを把握し、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査期間

2020年6～7月、2021年2月の計2回実施

(3) 調査対象・地域

首都圏に所在する病院・訪問看護・介護老人施設等

(4) 調査方法

郵送アンケート調査

(5) 回収状況

131件

(6) 本報告書について

次ページより、貴学の名称は川崎市立看護大学（仮称）もしくは「本学」と表記している。

なお、無回答は集計対象外とした。

2. 回答があった施設の属性

(1) 所在地（都道府県）

問1 貴施設の主たる所在地をお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	件数	%
全 体	131	100.0
神奈川県	130	99.2
東京都	1	0.8
埼玉県	0	0.0
千葉県	0	0.0
静岡県	0	0.0
その他	0	0.0

(2) 施設種

問2 貴施設についてお答えください、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	件数	%
全 体	129	100.0
病院	67	51.9
訪問看護ステーション	48	37.2
介護老人保健施設	7	5.4
介護老人福祉施設	7	5.4
診療所・クリニック	0	0.0
その他	0	0.0

(3) 看護師の人数

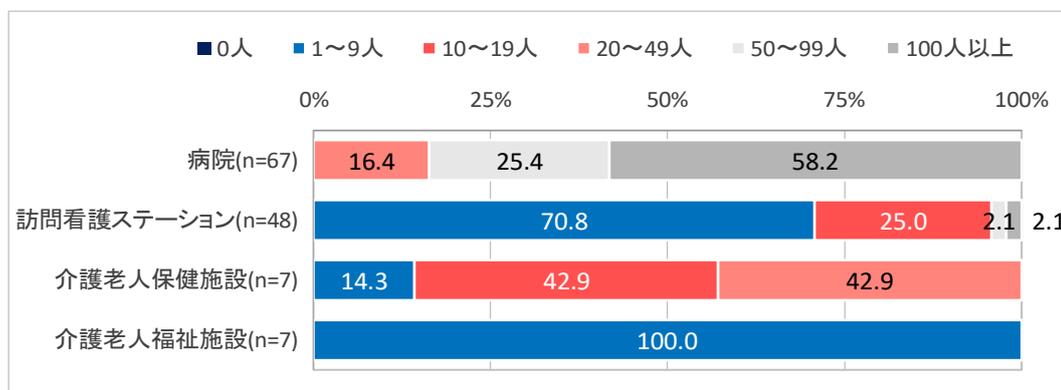
問3 貴施設において、現在勤務されている「看護師」の人数をお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	件数	%
全 体	131	100.0
0 人	0	0.0
1～9 人	42	32.1
10～19 人	15	11.5
20～49 人	15	11.5
50～99 人	18	13.7
100 人以上	41	31.3

● 施設種別クロス集計

病院において看護師の数をみると、「100人以上」が39件58.2%、その次に高いのが「50～99人」の17件25.4%。一方、訪問看護ステーションでは、看護師数「1～9人」が約7割。

	全体	0人	1～9人	10～19人	20～49人	50～99人	100人以上
病院	件 67	0	0	0	11	17	39
	% 100.0	0.0	0.0	0.0	16.4	25.4	58.2
訪問看護ステーション	件 48	0	34	12	0	1	1
	% 100.0	0.0	70.8	25.0	0.0	2.1	2.1
介護老人保健施設	件 7	0	1	3	3	0	0
	% 100.0	0.0	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0
介護老人福祉施設	件 7	0	7	0	0	0	0
	% 100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0



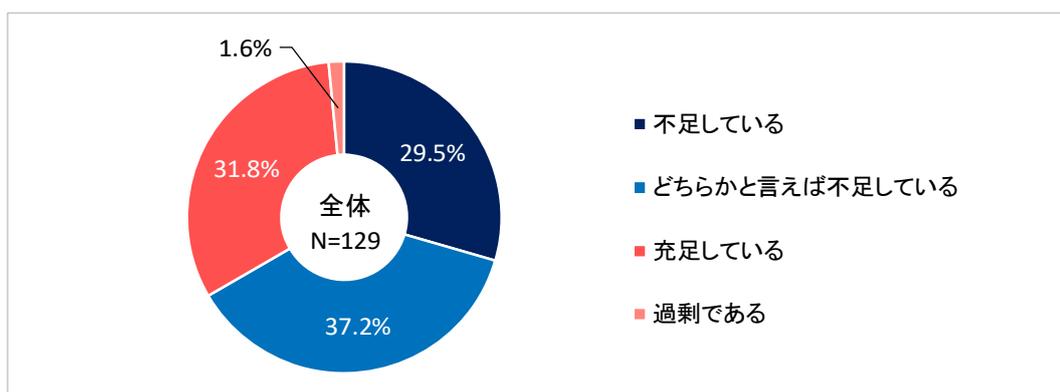
3. 看護師の充足・採用状況

(1) 看護師の充足状況

看護師の充足状況としては「どちらかと言えば不足している」が最も高く 37.2%。「不足している」も 29.5%であり、看護師不足との回答が約 7 割を占めた。

問 4 貴施設において、「看護師」の充足状況をお答えください。
あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

	件数	%
全 体	129	100.0
不足している	38	29.5
どちらかと言えば不足している	48	37.2
充足している	41	31.8
過剰である	2	1.6

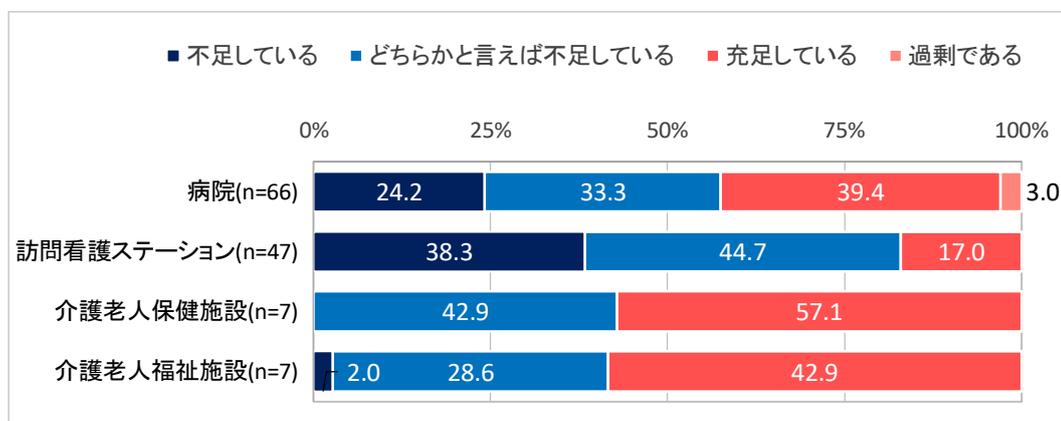


● 施設種別クロス集計

病院では、「不足している」が24.2%、「どちらかと言えば不足している」が33.3%と、看護師不足との回答が約6割。

また、訪問看護ステーションでは「不足している」が38.3%、「どちらかと言えば不足している」が44.7%であり、看護師不足の回答が8割以上と高い。

	全体	不足している	どちらかと言えば不足している	充足している	過剰である
病院	件 66	16	22	26	2
	% 100.0	24.2	33.3	39.4	3.0
訪問看護ステーション	件 47	18	21	8	0
	% 100.0	38.3	44.7	17.0	0.0
介護老人保健施設	件 7	0	3	4	0
	% 100.0	0.0	42.9	57.1	0.0
介護老人福祉施設	件 7	2	2	3	0
	% 100.0	28.6	28.6	42.9	0.0

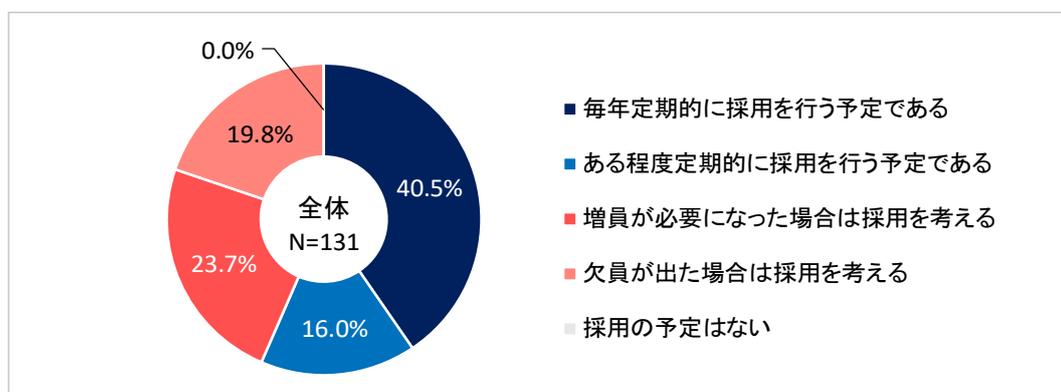


(2) 今後の看護師採用方針

看護師の今後の採用方針について、「毎年定期的に採用を行う予定である」との割合が40.5%で最も高い。次が「増員が必要になった場合は採用を考える」で23.7%。

問5 貴施設の「看護師」の今後の採用方針についてお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	件数	%
全体	131	100.0
毎年定期的に採用を行う予定である	53	40.5
ある程度定期的に採用を行う予定である	21	16.0
増員が必要になった場合は採用を考える	31	23.7
欠員が出た場合は採用を考える	26	19.8
採用の予定はない	0	0.0

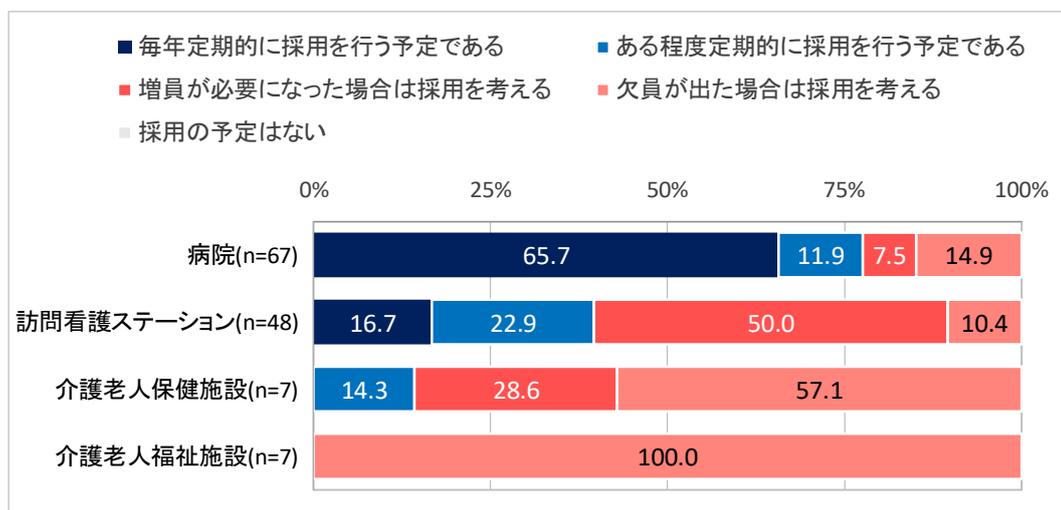


● 施設種別クロス集計

病院では、「毎年定期的に採用を行う予定である」が 65.7%と高い。「ある程度定期的に採用を行う予定である」と合わせると、約8割が定期的な看護師採用を予定していることが分かる。

一方、訪問看護ステーションでは、「毎年定期的に採用を行う予定である」は 16.7%と低く、「増員が必要になった場合は採用を考える」が5割。

		全 体	毎年定期的に採用 を行う予定である	ある程度定期的に採 用を行う予定である	増員が必要になった 場合は採用を考える	欠員が出た場合は採 用を考える	採用の 予定は ない
病院	件	67	44	8	5	10	0
	%	100.0	65.7	11.9	7.5	14.9	0.0
訪問看護 ステーション	件	48	8	11	24	5	0
	%	100.0	16.7	22.9	50.0	10.4	0.0
介護老人保健施設	件	7	0	1	2	4	0
	%	100.0	0.0	14.3	28.6	57.1	0.0
介護老人福祉施設	件	7	0	0	0	7	0
	%	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0



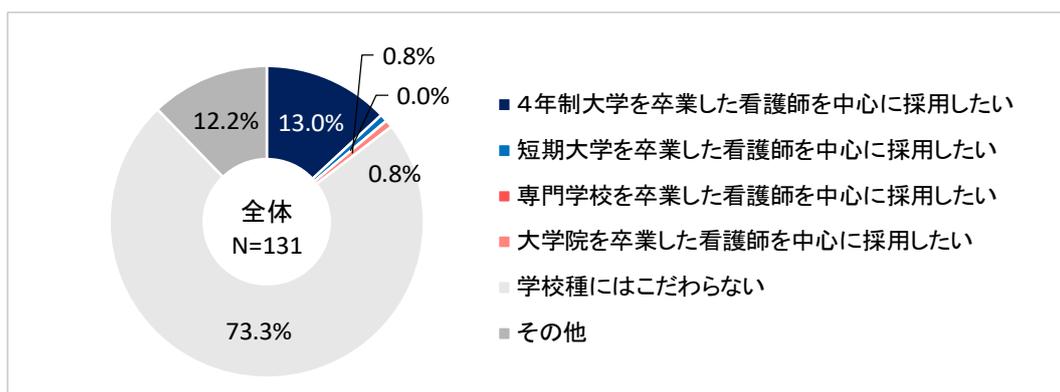
(3) 看護師の新卒採用

新卒採用する看護師の学歴については、「学校種にはこだわらない」が最も高く、73.3%となった。また、学校種の中では、四大の採用意向が最も高く、「4年制大学を卒業した看護師を中心に採用したい」が13.0%である。

問6 貴施設の「看護師」の新卒採用についてお答えください。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

	件数	%
全 体	131	100.0
4年制大学を卒業した看護師を中心に採用したい	17	13.0
短期大学を卒業した看護師を中心に採用したい	1	0.8
専門学校を卒業した看護師を中心に採用したい	0	0.0
大学院を卒業した看護師を中心に採用したい	1	0.8
学校種にはこだわらない	96	73.3
その他	16	12.2

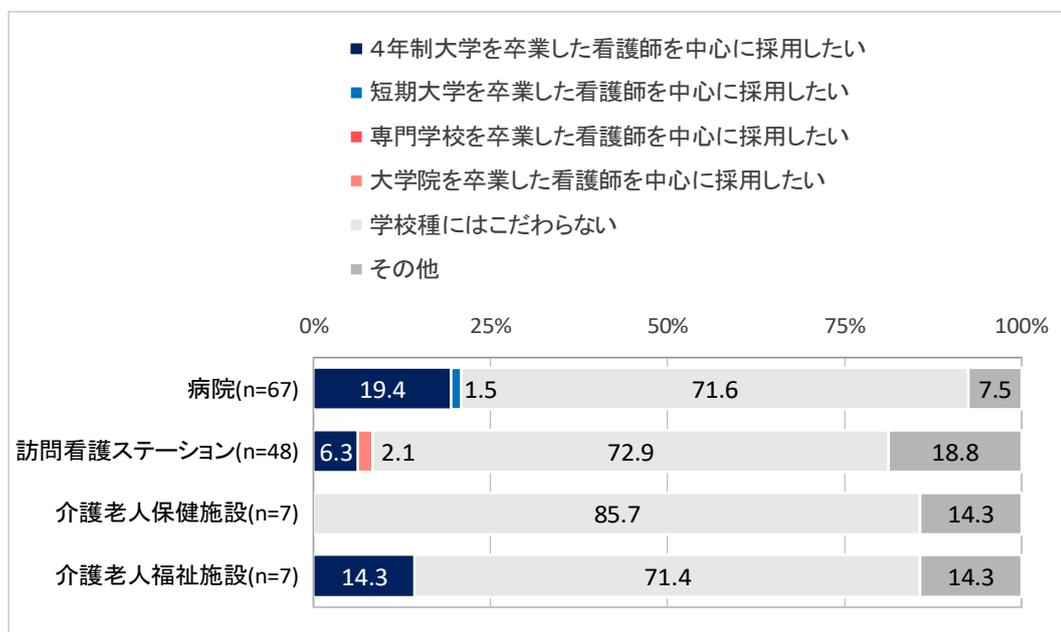
※「その他」の内容としては、「新卒採用の予定なし」「中途採用中心のため」「できれば臨床経験のある方が望ましい」「老年看護・生活の場での看護に関心のある方」などがあつた。



● 施設種別クロス集計

新卒採用する看護師の学歴について、施設別にみると下記の通り。病院で、「4年制大学を卒業した看護師を中心に採用したい」が約2割だった。

	全体	4年制大学を卒業した看護師を中心に採用したい	短期大学を卒業した看護師を中心に採用したい	専門学校を卒業した看護師を中心に採用したい	大学院を卒業した看護師を中心に採用したい	学校種にはこだわらない	その他
病院	件 67 % 100.0	13 19.4	1 1.5	0 0.0	0 0.0	48 71.6	5 7.5
訪問看護ステーション	件 48 % 100.0	3 6.3	0 0.0	0 0.0	1 2.1	35 72.9	9 18.8
介護老人保健施設	件 7 % 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 85.7	1 14.3
介護老人福祉施設	件 7 % 100.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 71.4	1 14.3

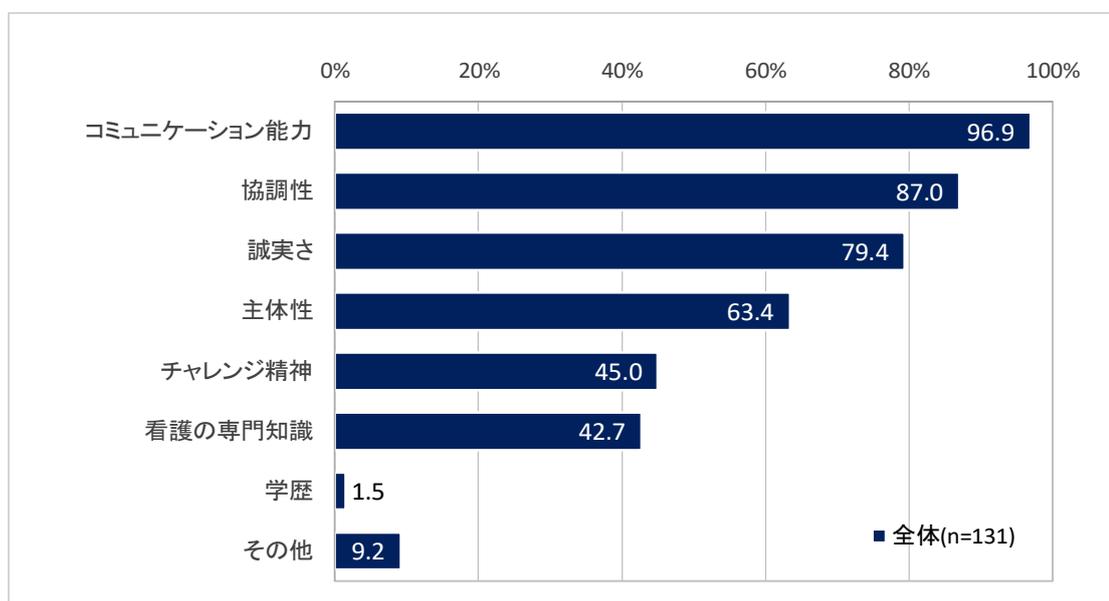


(4) 採用にあたって重視するもの

採用にあたっては、「コミュニケーション能力」「協調性」の2つが非常に重視されており、いずれも8割以上であった。また、その次の「誠実さ」や「主体性」も79.4%、63.4%と高い数値であり、人柄の面において複数の要素が重視されていることが分かる。

	件数	%
問7 採用にあたって何を重視しますか。該当するものすべてに○をつけてください。		
全 体	131	100.0
コミュニケーション能力	127	96.9
協調性	114	87.0
誠実さ	104	79.4
主体性	83	63.4
チャレンジ精神	59	45.0
看護の専門知識	56	42.7
学歴	2	1.5
その他	12	9.2

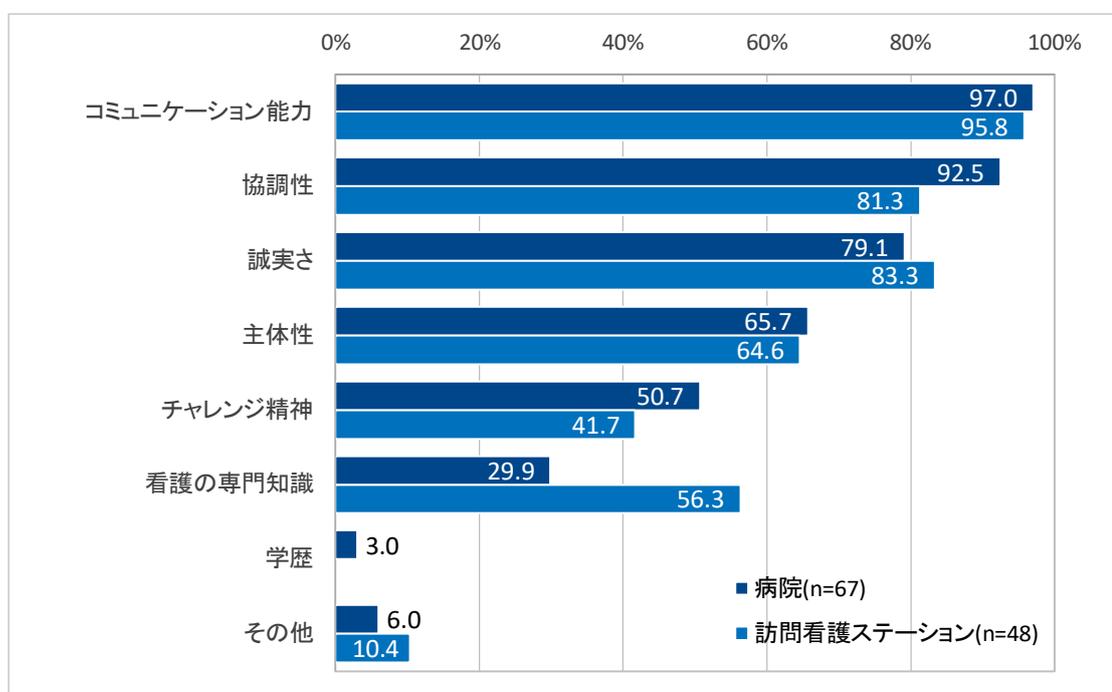
※その他の回答としては、「勤勉さ」「素直さ」「謙虚さ」「他者を思いやる気持ち、相手の立場に立って考えられること」「福祉への興味、生活施設への関心」「当院の看護理念への共感」「観察力、アセスメント能力、接遇」「健康であること」「メンタル、ストレスコーピング」などがあつた。



● 施設種別クロス集計

採用時の重視事項について、施設別にみると下記の通り。病院・訪問看護ステーションでは、「コミュニケーション能力」「協調性」「誠実さ」の3点が約8割以上と高かった。また、訪問看護ステーション・介護老人保健施設・介護老人福祉施設では、病院に比べて「看護の専門知識」の割合が大幅に高い（介護老人保健施設・介護老人福祉施設は母数が少ないので参考値）。

		全体	コミュニケーション能力	協調性	誠実さ	主体性	チャレンジ精神	看護の専門知識	学歴	その他
病院	件	67	65	62	53	44	34	20	2	4
	%	100.0	97.0	92.5	79.1	65.7	50.7	29.9	3.0	6.0
訪問看護ステーション	件	48	46	39	40	31	20	27	0	5
	%	100.0	95.8	81.3	83.3	64.6	41.7	56.3	0.0	10.4
介護老人保健施設	件	7	7	5	4	2	2	4	0	1
	%	100.0	100.0	71.4	57.1	28.6	28.6	57.1	0.0	14.3
介護老人福祉施設	件	7	7	7	6	5	2	4	0	1
	%	100.0	100.0	100.0	85.7	71.4	28.6	57.1	0.0	14.3



4. 川崎市立看護大学（仮称）について

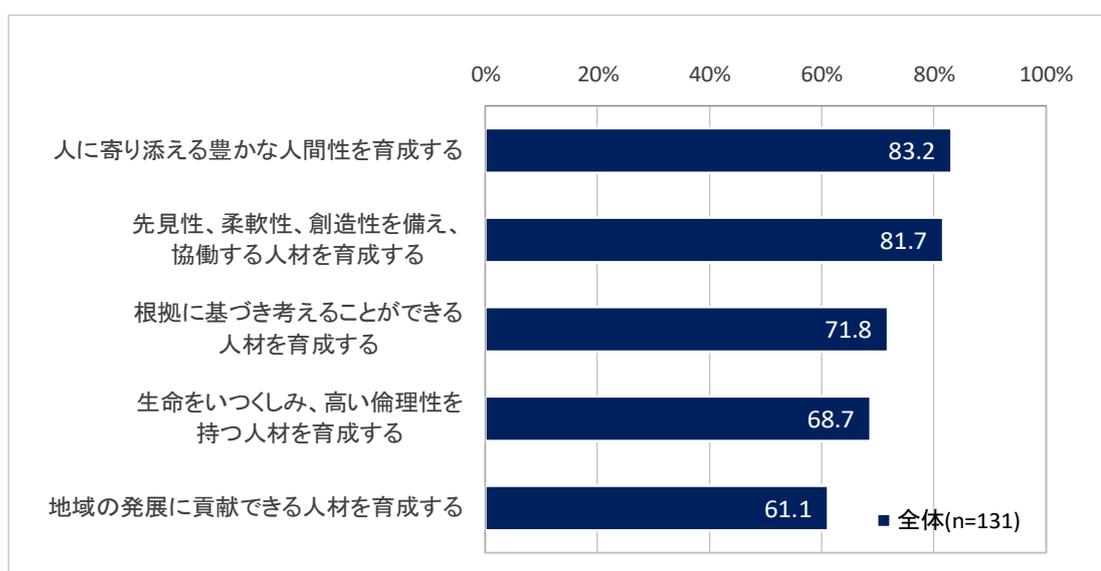
(1) 本学での人材育成方針で社会的ニーズが高いと思うもの

新設検討中の川崎市立看護大学（仮称）では、複数の観点での人材育成を検討しているが、その中で最も社会的ニーズが高いと思うものとしては、「人に寄り添える豊かな人間性を育成する」「先見性、柔軟性、創造性を備え、協働する人材を育成する」の割合が特に高く、いずれも 8 割を超えた。問 7 の採用時の重視点として重視されていた協調性に関する育成方針が、特に高い結果となっている。

その次の「根拠に基づき考えることができる人材を育成する」「生命をいつくしみ、高い倫理性を持つ人材を育成する」「地域の発展に貢献できる人材を育成する」も 6 割以上と高い割合であり、本学の人材育成指針の社会的ニーズの高さがうかがえた。

問 8 「川崎市立看護大学」（仮称）では以下のような人材育成を考えています。社会的ニーズが高いと思われるものすべての番号に○をつけてください。

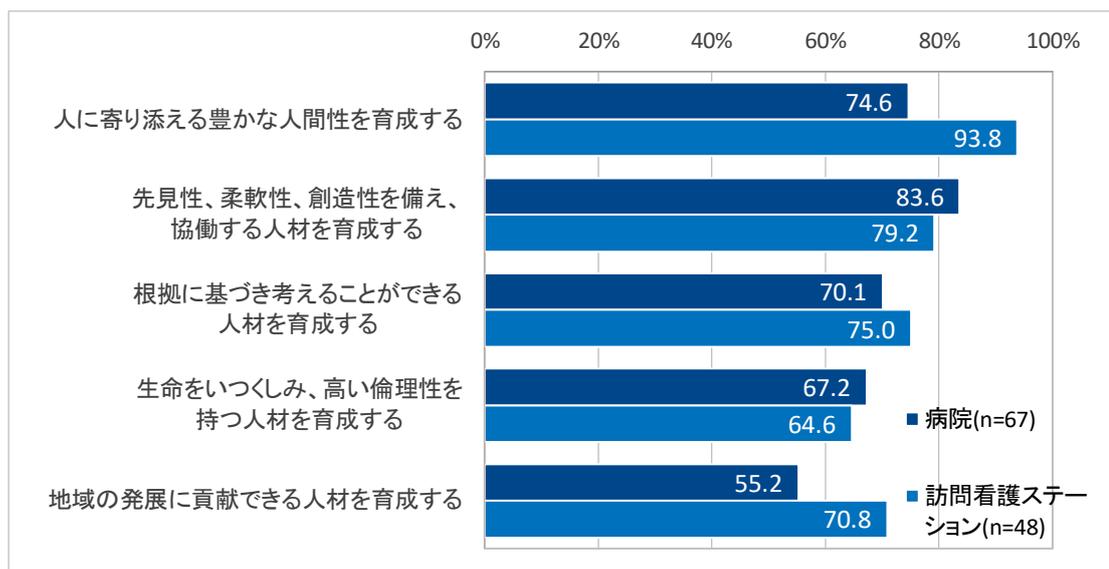
	件数	%
全 体	131	100
人に寄り添える豊かな人間性を育成する	109	83.2
先見性、柔軟性、創造性を備え、協働する人材を育成する	107	81.7
根拠に基づき考えることができる人材を育成する	94	71.8
生命をいつくしみ、高い倫理性を持つ人材を育成する	90	68.7
地域の発展に貢献できる人材を育成する	80	61.1



●施設種別クロス集計

採用時の重視事項について、施設別にみると下記の通り。訪問看護ステーションでは、「人に寄り添える豊かな人間性を育成する」割合が特に高く、9割以上。

		全体	人に寄り添える豊かな人間性を育成する	先見性、柔軟性、創造性を備え、協働する人材を育成する	根拠に基づき考えることができる人材を育成する	生命をいつくしみ、高い倫理性を持つ人材を育成する	地域の発展に貢献できる人材を育成する
病院	件	67	50	56	47	45	37
	%	100.0	74.6	83.6	70.1	67.2	55.2
訪問看護ステーション	件	48	45	38	36	31	34
	%	100.0	93.8	79.2	75.0	64.6	70.8
介護老人保健施設	件	7	5	6	6	6	5
	%	100.0	71.4	85.7	85.7	85.7	71.4
介護老人福祉施設	件	7	7	5	3	6	3
	%	100.0	100.0	71.4	42.9	85.7	42.9

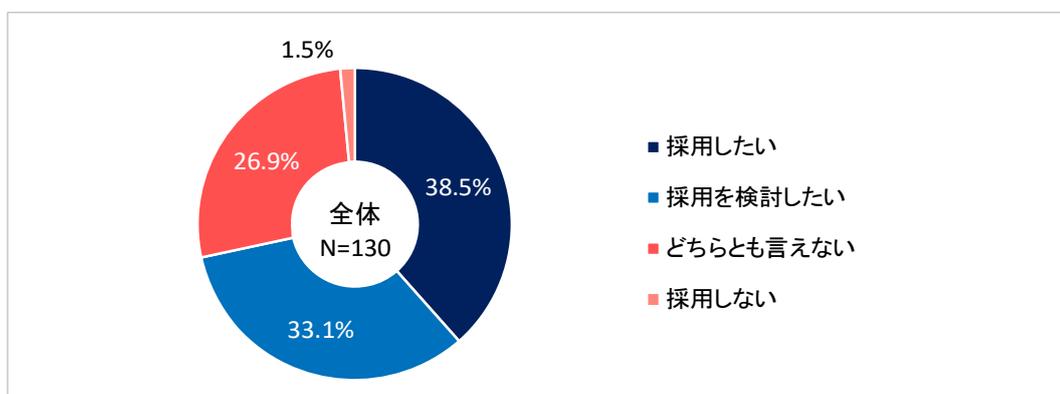


(2) 本学を卒業した看護師の採用意向

川崎市立看護大学(仮称)を卒業した看護師の採用意向では、「採用したい」が38.5%だった。「採用を検討したい」33.1%と合わせて、全体の約7割が本学卒業生の採用について前向きであることが分かる。

問9 川崎市立看護大学(仮称)を卒業した看護師を採用したい
と思いますか? あてはまる番号1つに○をつけてください。

	件数	%
全 体	130	100.0
採用したい	50	38.5
採用を検討したい	43	33.1
どちらとも言えない	35	26.9
採用しない	2	1.5



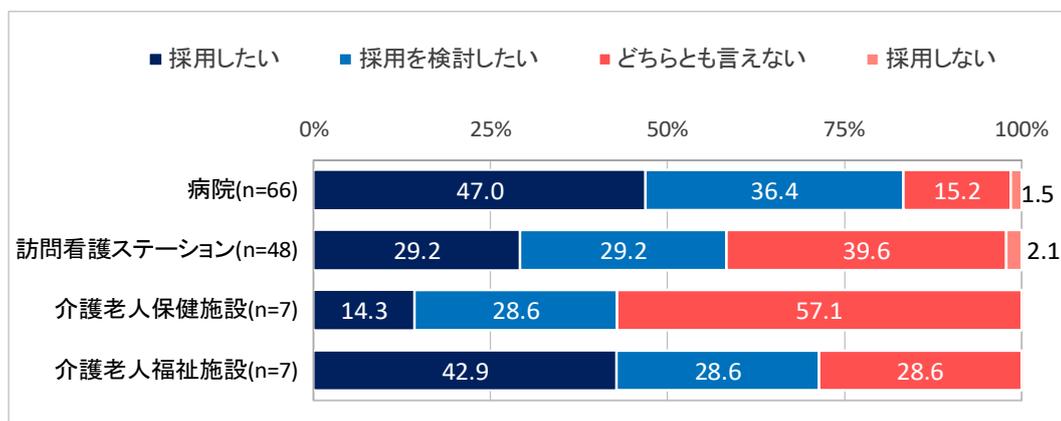
●施設種別クロス集計

病院において、「採用したい」割合が非常に高く、47.0%だった。「採用を検討したい」も36.4%であり、合わせて8割強の病院において、本学卒業生の採用意向があると言える。

また、訪問看護ステーションでは、「採用したい」「採用を検討したい」がそれぞれ29.2%。本学卒業生の採用意向は約6割。

さらに、母数が少ないため参考値ではあるが、介護老人福祉施設でも「採用したい」が42.9%と高い。

		全 体	採 用 し た い	採 用 を 検 討 し た い	ど ち ら と も 言 え な い	採 用 し な い
病院	件	66	31	24	10	1
	%	100.0	47.0	36.4	15.2	1.5
訪問看護 ステーション	件	48	14	14	19	1
	%	100.0	29.2	29.2	39.6	2.1
介護老人保健施設	件	7	1	2	4	0
	%	100.0	14.3	28.6	57.1	0.0
介護老人福祉施設	件	7	3	2	2	0
	%	100.0	42.9	28.6	28.6	0.0

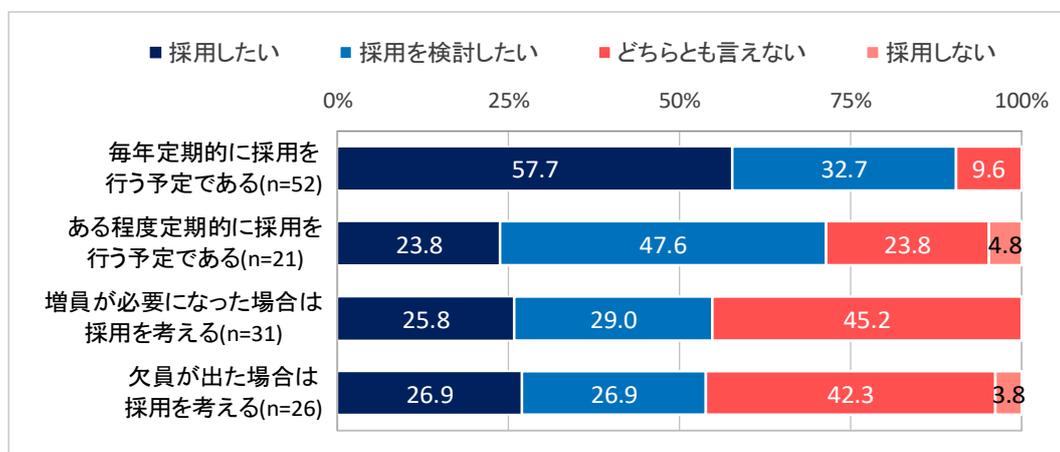


● 採用方針別クロス集計

問5の採用方針別に本学を卒業した看護師の採用意向をみると、毎年定期的に採用を行う予定の施設において、「採用したい」との割合が57.7%。「採用を検討したい」32.7%と合わせると、本学卒業生の採用意向は9割以上に上る。

また、ある程度定期的に採用を行う予定の施設では、本学卒業生の採用意向は7割以上。

	全 体	採 用 し た い	採 用 を 検 討 し た い	ど ち ら と も 言 え な い	採 用 し な い
毎年定期的に採用を 行う予定である	件 52 % 100.0	30 57.7	17 32.7	5 9.6	0 0.0
ある程度定期的に採 用を行う予定である	件 21 % 100.0	5 23.8	10 47.6	5 23.8	1 4.8
増員が必要になった 場合は採用を考える	件 31 % 100.0	8 25.8	9 29.0	14 45.2	0 0.0
欠員が出た場合は 採用を考える	件 26 % 100.0	7 26.9	7 26.9	11 42.3	1 3.8

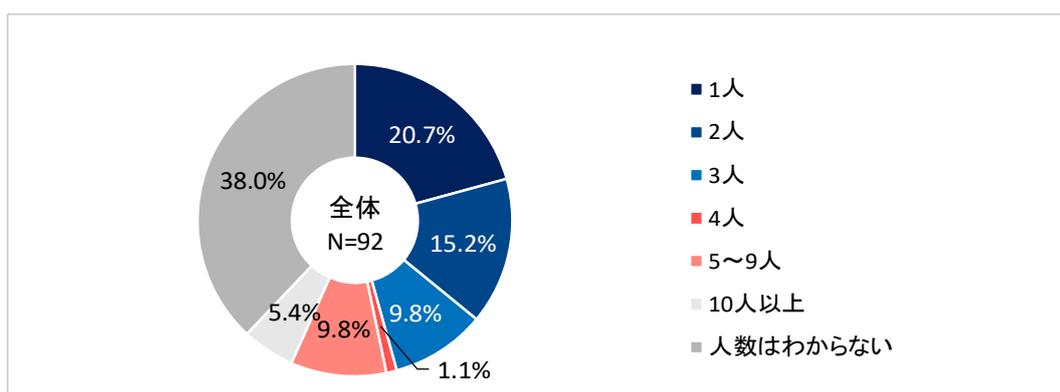


(3) 現時点での採用可能人数

問9で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した92施設に対し、現時点での採用可能人数を尋ねたところ、具体的な人数の回答があったうち最も割合が高かったのは、「1人」の20.7%であった。

問10 問9で「1.採用したい」または「2.採用を検討したい」と回答した方にお尋ねします。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか？ あてはまる番号1つに○をつけてください。

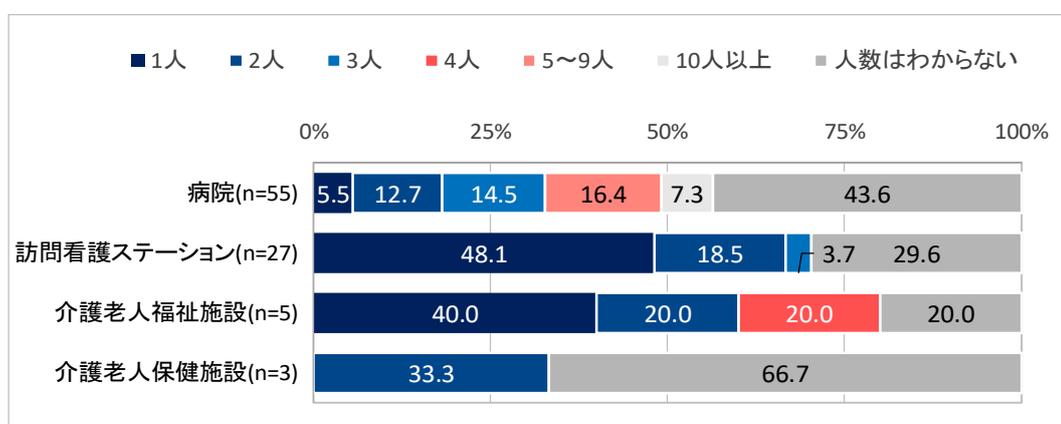
	件数	%
全体	92	100.0
1人	19	20.7
2人	14	15.2
3人	9	9.8
4人	1	1.1
5～9人	9	9.8
10人以上	5	5.4
人数はわからない	35	38.0



● 施設種別クロス集計

採用可能人数について、施設別にみると下記の通り。病院では、「5～9人」の割合が高く、16.4%であった。一方、訪問看護ステーションでは「1人」の割合が高く、48.1%。

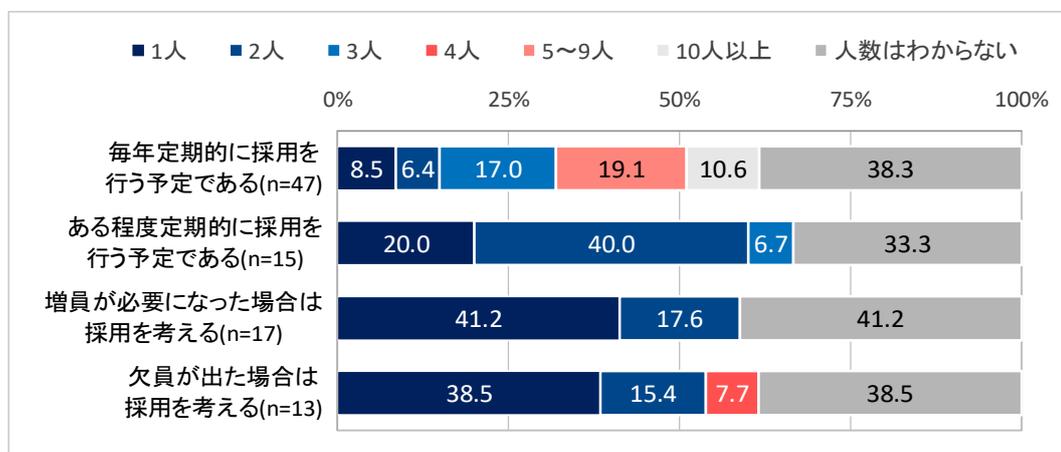
		全体	1人	2人	3人	4人	5～9人	10人以上	人数はわからない
病院	件	55	3	7	8	0	9	4	24
	%	100.0	5.5	12.7	14.5	0.0	16.4	7.3	43.6
訪問看護ステーション	件	27	13	5	1	0	0	0	8
	%	100.0	48.1	18.5	3.7	0.0	0.0	0.0	29.6
介護老人保健施設	件	5	2	1	0	1	0	0	1
	%	100.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
介護老人福祉施設	件	3	0	1	0	0	0	0	2
	%	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7



● 採用方針別クロス集計

採用可能人数について、採用方針別にみると下記の通り。毎年定期的に採用を行う予定の施設では、「5～9人」の割合が高く、19.1%。一方、増員が必要になった場合は採用を考える・欠員が出た場合は採用を考えるといった、人員状況によって都度採用する施設においては、「1人」の割合が約4割と高い。

	全体	1人	2人	3人	4人	5～9人	10人以上	人数はわからない
毎年定期的に採用を行う予定である	件 47 % 100.0	4 8.5	3 6.4	8 17.0	0 0.0	9 19.1	5 10.6	18 38.3
ある程度定期的に採用を行う予定である	件 15 % 100.0	3 20.0	6 40.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 33.3
増員が必要になった場合は採用を考える	件 17 % 100.0	7 41.2	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 41.2
欠員が出た場合は採用を考える	件 13 % 100.0	5 38.5	2 15.4	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	5 38.5



(4) 採用しないと回答した理由

問 9 にて本学卒業生を「採用しない」と回答した施設に対し、採用しない理由を尋ねたところ、①業務の特質から新人向きではないと判断し、経験者を優遇している点と、②施設規模が小規模のため、新人育成の体制が整っていない点の 2 つが特徴的な意見として挙げられた。

問 11 問 9 で「4.採用しない」と回答した方にお尋ねします。採用しないと回答した理由をご自由にお書きください。

・医療・福祉の実践経験・技術等が必要。医師がいない時も多く、判断力、知識が必要。高齢者の理解において、新卒では人数制限があり難しい。(介護老人保健施設)
・介護老人保健施設として、看護師の経験を重視しており、新卒者向きではないと考えるため。(介護老人保健施設)
・新卒ではなく、ある程度の基礎～専門技術を学んでほしい(夜勤時に 1 人になることもあり、フィジカルアセスメント対処法などに不安があり、経験がほしい)。対象がホスピスであり、難病やがん末期を対象としているため。(訪問看護ステーション)
・欠員が出た場合に、補充採用している。大学卒業後、3 年以上の経験があれば採用したい。(病院)
・小規模の施設であり、新人の教育体制が整っていないため。(病院)
・新卒を教育するシステムがないため。(訪問看護ステーション)
・当院が小規模なため。(病院)
・採用する、しないではなく本人の器量を総合的に見て判断したいため。(病院)

(5) 本学に期待する点や要望

川崎市立看護大学(仮称)について、開学を期待する声が寄せられた。特に、地域医療についてのコメントが多く、以下に列挙する。

問 12 設置構想中の川崎市立看護大学(仮称)について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

・神奈川県で学び、県内に残って働き続けてくれたら嬉しい。しなやかに、かつ、たくましいナースであって欲しい。(病院)
・川崎の福祉に貢献できる、高齢者にやさしい看護師の育成と供給をお願いしたい。(介護老人福祉施設)
・川崎市立看護短大から引き続き、地域で安心して暮らすことができる社会を、共に築いていける学生を待ち望む。(業種未回答)
・地域の中小の病院で地域看護を目指す人材を育成していただきたい。(病院)
・大学卒業後は総合病院やアクティブに活躍できる部署(例えば救命や ICU がある等)を希望されることが多いが、今後は地域に根付いた病院で柔軟に対応できる看護師が人材として必要とされると考えている。(病院)
・地域医療の発展に貢献できる人材の育成を、ぜひお願いしたい。(病院)
・チームワークを始めとする社会人基礎力を有し、今後の人口動態や社会情勢を踏まえ、地域で就業継続してくれる人材の育成を期待する。(訪問看護ステーション)
・地域看護、リハビリテーションを十分理解し、実行できる人材育成、自立支援・重度化防止・予防という点が理解できる人材育成を求む。(訪問看護ステーション)
・今後は地域、在宅に世の中の目が向かっていくと考える。訪問看護ステーションは、仕事の内容から新卒は難しいと思うが、長い看護師生活の中で、やってみたいと思ってくれたら幸いである。(訪問看護ステーション)

ン)
・川崎市での就職、地域への貢献…長期戦だったが、ここまでできて良かった。大学への躍進を切に願う。(訪問看護ステーション)
・地域(川崎)の特性を理解できる看護師の育成をお願いしたい。(訪問看護ステーション)
・川崎市における地域看護や社会に貢献できる人材が欲しい。なお、当事業所周辺在住の学生で、看護アシスタント(介護補助)のバイト希望があれば受け入れ、人材として学生から育てたいと考えている。バイトなど希望者はいるか? どこにアクセスすればわかるのか知りたい。(訪問看護ステーション)
・今後、訪問看護を目指したいと思える地域での実習体験を充実させ、十分な経験をもとに病院や地域に看護師を充足していただきたい。真に看護師を志す人を育成してほしい。(訪問看護ステーション)
・看護短大と同様に、引き続き川崎市の地域性や生活背景を理解した上で、患者様の立場に寄り添える看護の姿勢を大切にしていきたい。(訪問看護ステーション)
・地域包括ケアシステムの担い手を養成するということで、在宅ケア(訪問看護)を志す看護師を育成していただきたい。(訪問看護ステーション)

また、それ以外にも数多くの意見が寄せられた。順不同にて、下記に記載する。

問 12 設置構想中の川崎市立看護大学(仮称)について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

・専門知識はもちろんだが、看護の楽しさを感じることの出来る学生時期を過ごしてもらいたい。卒業時には、看護することが大好きと思える学生になってほしい。(病院)
・当院は中小規模の病院であり、ここ2~3年は新卒を1~2名受け入れてきた。就職活動の中で大病院への就職が全てではなく、本人にあった幅広い指導をしていただければと思う。(病院)
・素直で心が強い学生を育ててください。就職説明会に参加(開催)してほしい。(病院)
・社会人基礎力に関する教育も検討していただきたい。回復期リハビリテーション病棟を、急性期ではできないからという認識を変えていただきたい。専門性と業務量の多さなど、現状を見て検討していただきたい。(病院)
・より多くの人材の育成に期待する。(病院)
・看護を志す若い力を是非多く育てていただきたい。(病院)
・学業はもちろんのこと、患者に寄り添える豊かな人間性を育成していただきたい。(病院)
・貴大学の人材育成に対する考え方が素晴らしいと感じた。このような教育を、現場の人材育成につないでいきたいと考えた。期待している。(病院)
・小規模ならではの強みを生かして、個を大切にされた教育を望む。(病院)
・何事においても、あきらめない人材育成をお願いしたい。言葉づかい、礼節を保てる人材が良い。(病院)
・チーム医療(職種連携)の理解と運用が出来る人材育成をお願いしたい。(病院)
・看護大学が乱立し、看護を教授する人材に今現在疑問を持っている。臨床経験をしっかり積み看護を展開できる教員を採用して、看護ができる人材を育ててもらいたい。(病院)
・生活に添い、本人に添う形で看護を提供できる人材の育成に期待する。(介護老人福祉施設)
・実習の様子を見ている、短大の人材育成に対する疑問を感じていた。積極的に探究心のある学生を育ててほしい。期待している。(訪問看護ステーション)
・看護師は、看護の事のみを知っていればいい訳ではない。病院に出入りする業者の事、人員基準の事、適時調査の事など、自分たちの仕事がどこで評価され、どのように経営が成り立つのかを勉強してほしい。知らずのワガママが多すぎると思う。(病院)
・人間性にあふれる看護師の方々を育成していただきたい。今でも、正と准で看護師を差別する正看護師がいる。このような看護師を再教育できる場であっていただきたい。(介護老人福祉施設)

<p>・川崎市立看護短大卒の先輩がいる。卒業生が大学編入や大学院への進学などができるようにしてほしい。(病院)</p>
<p>・1998年以降より、専任職員12名が入職された。専門性の高い領域で長く活躍しており、大学院進学者や看護管理者を担っている卒業生の方もいる。今後ともよろしく願いたい。(病院)</p>
<p>・今後、大学院や認定・特定看護師のコースなど、高度実践看護師の育成もしていただけると嬉しい。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・図書館を市内医療従事者に開放すべきである。学術と現場が寄り添う場になることを期待する。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・コロナの中で、実習もあまり出来ず大変かと思う。患者(利用者)の生の声が聞けないのは、これから先も学生にとってはギャップとなると思われる。模擬的に患者を設定するなど、現場になるべく近づけられるとよいと思う。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・高齢者を自分の家族のように思える、優しく、思いやりのある看護師の育成をお願いしたい。自立して、判断力のある看護師を望む。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・成績の良・不良ではなく、その学生の持つ可能性を見出し、大きく育てることができたなら、川崎のみならず、日本全国どこへ行ってもそこで輝けるはず。そんな看護師・保健師たちを育成して欲しいと願う。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・訪問看護の実習に来られた際、在宅療養が病院とどう違うのか、また、訪問看護の役割がどのような事かを是非、理解していただきたい。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・採用時には大学がどこかということよりも人格を重視。しかし、短大より4年制大学の方が(エビデンスなど)教育が整っているのかも思う。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・根拠に基づき適切な判断力のある、人に寄り添って思いやりのある看護師になって活躍してほしいと期待している。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・実習を多く取り入れていただき、即戦力として活躍していただける人材(人財)を育成してほしい。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・同じ区内にあるので、実習など教育から関われば光栄だと考える。より多くの人材育成と、続けていける人格の育成に期待する。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・知識や技術だけではなく、1人の利用者(患者)を様々な役割をもって生きてきた人として看護ができる人に育ててほしい。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・より多くの人が、在宅看護に興味を持ってくれることを願う。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・多様な働き方があるので、結婚・出産などの人生イベントがあっても看護師をやめずに看護師として働き続けることができることを伝えてほしい。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・相手の立場で考えることのできる看護師、自分の考える看護にきちんと裏付けができる看護師の育成。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・今後、在宅も重要になってくるため、個々に合わせられる柔軟性が必要かと思う。教科書では学べない感性や創造力が大切だと思う。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・相手の立場にたって物事を考えられる看護師の育成に期待する。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・看護師の仕事に夢や希望が持てるように学んでいてもらいたいと思う。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・四年制大学への移行は後過ぎる程と思う。移行した際には、看護大学が多すぎるという事のないようにして、優秀な人材が集まるよう、努力をお願いしたい。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・医療手技がある程度行える方、主体性があり、自分の行いたいものがある方、コミュニケーションがとれる方、今の超高齢者社会に沿った老人看護学を、しっかり学んできて欲しい。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・新卒でも訪問看護に興味があれば、是非フレッシュな看護師さんの活躍を期待したい。人に寄り添い、人の気持ちを理解しようとする姿勢の人材育成が大切になってくると思う。(訪問看護ステーション)</p>
<p>・新卒の方を迎えられるような体制や基盤作りを構築できていないが、いつか訪問看護から新人育成していけるよう努力していきたいと思っている。生活と医療をつなげる看護師の育成をお願いしたい。(訪問看護ステーション)</p>

5. まとめ

これまでのアンケート調査結果から、川崎市立看護大学（仮称）卒業生への社会的ニーズを考察し、以下にまとめた。

今回回答を得た全 131 件から無回答を除いた 130 件のうち、問 9 で本学を卒業した看護師を「採用したい」と回答したのは 50 件（全体の 38.5%）、「採用を検討したい」と回答したのは 43 件（全体の 33.1%）。合わせて 93 件（全体の 71.6%）が、本学卒業生を採用対象として検討していることがわかった。

また、上記の問で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した全 93 件のうち、問 10 での採用可能人数の回答は下記表の通りである。採用可能人数の回答人数に回答件数を掛けて合計し、最低採用可能人数を算出したところ、173 人となった。

採用意向あり（施設数）	93 件	
↓		
川崎市立看護大学（仮称）		
採用可能人数 1 名以上（施設数）	人数はわからない	無回答
57 件	35 件	1 件
↓		
採用可能人数	回答件数（施設数）	
1 人	19 件	
2 人	14 件	
3 人	9 件	
4 人	1 件	
5～9 人	9 件	
10 人以上	5 件	
↓ ※「5～9 人」は 5 人、「10 人以上」は 10 人として算出した。		
最低採用可能人数	173 人	

川崎市立看護大学（仮称）設置に関するアンケート調査票

（病院・訪問看護・介護老人施設等）

川崎市は、平成7年に川崎市立看護短期大学を開学し、看護人材不足に対応してきていますが、近年の医療の高度化、多様化への確な対応や、地域包括ケアシステムの担い手としての看護師を養成することを旨として、川崎市立看護短期大学を4年制大学にする取り組みを進めています。

そこで、病院や医療・介護施設等に勤務されている皆様にアンケート調査を実施させていただき、構想中の「川崎市立看護大学（仮称）」の設置のための基礎資料とさせていただきますと考えております。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、本調査は客観性を担保するため、株式会社日本ドリコムに集計・分析等を委託します。この調査票は無記名方式（施設名・部署名は除く）で、アンケート結果は統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表する等の目的のために使用することはありません。

新大学・学部設置は計画中であり、名称等は正式に決まったものではなく、変更される可能性があります。

問1 貴施設の主たる所在地をお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 神奈川県 2. 東京都 3. 埼玉県 4. 千葉県 5. 静岡県 6. その他（ ）

問2 貴施設についてお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 病院 2. 診療所・クリニック 3. 訪問看護ステーション 4. 介護老人保健施設
5. 特別養護老人ホーム 6. その他（ ）

問3 貴施設において、現在勤務されている「看護師」の人数をお答えください。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 0人 2. 1～9人 3. 10～19人 4. 20～49人 5. 50～99人 6. 100人以上

問4 貴施設において、「看護師」の充足状況をお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 不足している 2. どちらかと言えれば不足している 3. 充足している 4. 過剰である

※以下は、同封の川崎市立看護大学（仮称）のリーフレットをご覧ください。

問5 貴施設の「看護師」の今後の採用方針についてお答えください。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 毎年定期的に採用を行う予定である 2. ある程度定期的に採用を行う予定である
3. 増員が必要になった場合は採用を考える 4. 欠員が出た場合は採用を考える
5. 採用の予定はない

問6 貴施設の「看護師」の新卒採用についてお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 4年制大学を卒業した看護師を中心に採用したい 2. 短期大学を卒業した看護師を中心に採用したい
3. 専門学校を卒業した看護師を中心に採用したい 4. 大学院を卒業した看護師を中心に採用したい
5. 学校種にはこだわらない 6. その他（ ）

問7 採用にあたって何を重視しますか。該当するものすべてに○をつけてください。

1. コミュニケーション能力 2. チャレンジ精神 3. 主体性 4. 誠実さ 5. 協調性
6. 学歴 7. 看護の専門知識 8. その他（ ）

問8 「川崎市立看護大学」（仮称）では以下のような人材育成を考えています。
社会的ニーズが高いと思われるものすべての番号に○をつけてください。

1. 人に寄り添える豊かな人間性を育成する
2. 先見性、柔軟性、創造性を備え、協働する人材を育成する
3. 生命をいつくしみ、高い倫理性を持つ人材を育成する
4. 根拠に基づき考えられることができる人材を育成する
5. 地域の発展に貢献できる人材を育成する

問9 川崎市立看護大学（仮称）を卒業した看護師を採用したいと思いませんか？あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 採用したい 2. 採用を検討したい 3. どちらとも言えない 4. 採用しない

※問9で「1. 採用したい」または「2. 採用を検討したい」と回答した方にお尋ねします。

問10 現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか？あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5～9人 6. 10人以上 7. 人数はわからない

※問9で「4. 採用しない」と回答した方にお尋ねします。

問11 採用しないと回答した理由をご自由にお書きください。

問12 設置構想中の川崎市立看護大学（仮称）について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

***** 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。*****

FAX 送信先：03-6746-0053

【ご返信期日：2月12日（金）】

貴施設名
部署名